

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

高知県

自治体名：高知県

担当課名：教育委員会事務局 保健体育課

電話番号：088-821-4900

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	7,104 km ²
人口	652,459 人
公立中学校数	93 校
公立中学校生徒数	12,554 人
部活動数	721 部活
都道府県の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
都道府県の推進計画・ガイドライン等の策定状況	令和6年3月 ガイドライン策定

地域連携・地域移行における都道府県の現状・課題

県内の学校数・生徒の推移について、平成24年以降の統計では、右の表のように全ての数値が減少している。

令和6年度、34市町村に公立中学校は93校ある。そのうち、17市町村は中学校が1校のみである。

また、学校規模では、全校生徒30人以下の中学校数が26校、31人以上50人以下の中学校が13校、51人以上100人以下の中学校が16校で、実に約60%の中学校が100人以下の中学校となる状況である。

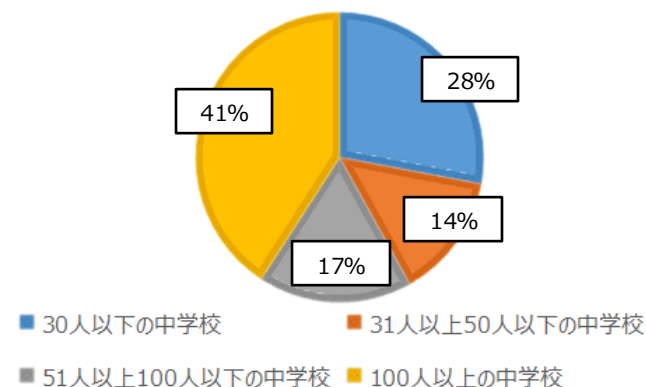
これらの小規模の学校では、部活動で行うことができる競技が少なくなっており、主に団体競技はチームが組めない状況から部活動が減少している。

このような状況から、今後子どもの活動の機会確保及び選択肢を広げるため、各市町村や関係機関と連携しながら子どものスポーツ環境の整備に取り組んでいく必要がある。

	公立中学校数	生徒数	運動部活動数	運動部部員数
平成24年度	114	16,151	998	12,583
令和4年度	98	13,196	962	9,497
令和6年度	93	12,554	721	6,950

令和6年度県内公立中学校数	93校
1市町村1中学校	17校
30人以下の中学校	26校
31人以上50人以下の中学校	13校
51人以上100人以下の中学校	16校
100人以上の中学校	38校

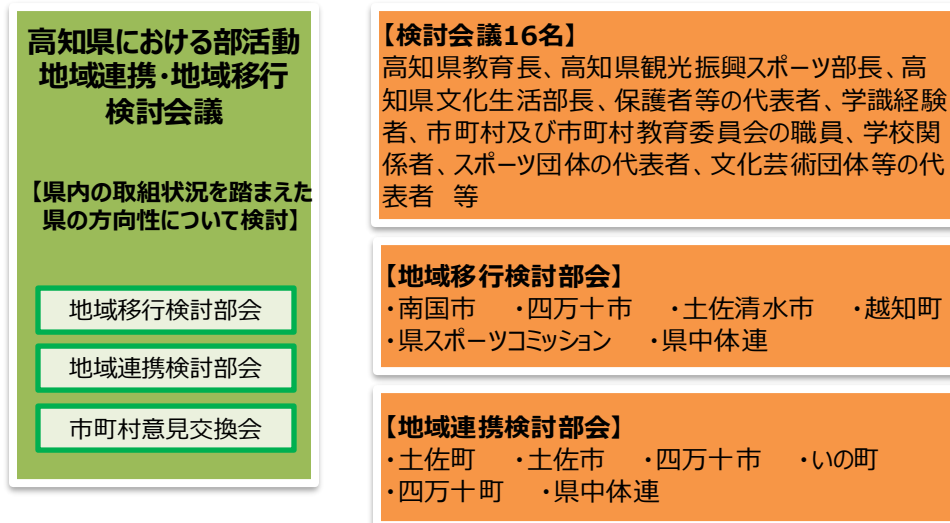
公立中学校の人数規模



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（都道府県における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会【保健体育課】

- ・県の検討会議、各部会の実施
- ・実証事業の実施
- ・各市町村教育委員会との連携

◎首長部局【観光振興スポーツ部スポーツ課】

- ・地域人材の発掘
- ・指導者確保に関する事業
- ・中学校へつなげる小学生のスポーツ環境整備

年間の事業スケジュール

令和6年5月	リーフラスと県の委託契約 県と4市町と委託契約
令和6年6月	実証事業開始
令和6年8月	第3回地域連携検討部会 第4回地域移行検討部会
令和6年9月	県独自実証事業中間検査 （6～7月分）
令和6年11月	第4回地域連携検討部会 リーフラス実証事業中間検査
令和7年1月	第5回地域連携検討部会 第5回地域移行検討部会 県と4市町事業終了 先進県への視察
令和7年2月	令和7年度実証事業参加申込 第3回検討会議 市町村意見交換会
令和7年3月	リーフラスとの契約終了 決算書及び成果報告書の送付

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

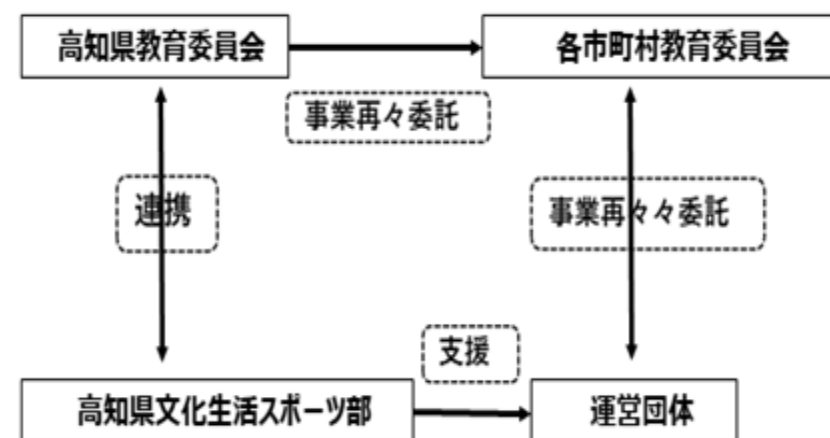
- ・実証事業実施市町の協議会へ参加し、事業の進捗状況や課題等への対応策の検討を行う。
- ・その他県内各市町村の部活動改革に伴う会議に出席し、国・県の考え方、各地域の現状把握、県内の取組状況の情報提供などを行った。

取組の成果

県内の市町村への訪問及び各協議会等への参加をとおして、国、県の動向や他市町村の取組状況などについて情報提供を行い、各市町村の実情に沿った取組を検討するよう促した。その結果、いくつかの市町村では具体的な実施に向けて動き出しており、県内においても取組が進み始めた。

一方、地域に指導者がいない、生徒数が少なく活動自体が難しくなっている、中学校の統廃合ため部活動の取組まで手が回っていない等の地域があり、全ての市町村で検討を進めるには至っていない。

事業実施体制図（都道府県と市区町村における推進体制図）



総括コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・実証事業を行っている市町村へ出向き、助言を行った。
- ・地域移行が進んでいない地域へ訪問し助言を行った。
- ・各市町村で情報を収集し、地域移行の進捗状況の分かる資料の作成を行った。
- ・県の行う地域移行・地域連携の両部会の資料の作成を行うとともに、市町村の意見交換会では進行役として参加した。

今後の課題と対応方針

- ・小規模な学校の多い本県の特徴を踏まえ、地区別担当者会等を実施し、単独での取組が難しい市町村を支援していく。
- ・総括コーディネーターの動きとしては、市町村が雇用しているコーディネーターと連携し、市町村をまたいだ取組の推進を図っていく。
- ・基本的に保健体育課の職員に同行して、情報交換や助言を行うという流れが多かったため、今後は、単独で市町村に訪問する機会を増やしていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

保健体育課

- ・指導者の資質向上に関する取組として、暴言、暴力、スポーツハラスメントの防止等に係る研修を実施した。
- ・地域クラブ指導者や部活動指導員に向けて、県スポーツ課の指導者バンクへの登録のアナウンスを行った。
- ・部活動指導員研修会への地域クラブ指導者の参加の要請を行った。
- ・県検討会議及び地域移行検討部会に県スポーツ協会、県中体連、県観光振興スポーツ部から委員として参加してもらうなど、連携を図った。
- ・高知県中学校体育連盟と連携し、地域クラブの県中体連主催大会への参加規定の見直しや、拠点校部活動の参加規定の策定作業を行った。また、専門的な指導者の育成に関して連携した。
- ・市町村において、指導者が見つからない場合は、県スポーツ協会に照会をかけ、指導者の確保につなげた。

観光振興スポーツ部スポーツ課・県スポーツ協会

- ・高知県のニーズを調査し、公認コーチ養成講習を実施した。
- ・年3回 J S P O 公認スポーツ指導者資格の取得に関する研修会を開催した。
- ・スポーツ少年団指導者を養成するために、年2回スタートコーチ（スポーツ少年団）養成講習会を開催した。
- ・スポーツに関する最新情報や指導方法についての更新講習の実施した。
- ・小学生を含めた子どものスポーツ環境を整備する取組を行った。

取組の成果

- ・県内スポーツ指導者の資質の向上が図れた。
- ・地域スクラブの指導者が、希望する資格が取得できた。
- ・高知県中学校体育連盟の協力により、地域クラブ指導者が、競技指導の研修会を受けられるようになった。（6ページ左）
- ・スタートコーチの資格所持者が増加した。（6ページ右）
- ・部活動指導員研修会への地域クラブ指導者の参加を勧めるため、県HPに一覧を掲載した。

今後の課題と対応方針

- ・各自治体と連携し、地域のニーズに沿った指導者の確保を行う。
- ・指導者の確保に向け、県内で一定規模の従業員のいる企業や、地元の大学へ、地域クラブの指導に向けた要請を行う。
- ・研修の充実、研修方法の検討を行う。
- ・知事部局（観光振興スポーツ部スポーツ課）とのさらなる連携を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保 ウ：関係団体・分野との連携強化

県中体連専門部の協力による指導者講習一覧表【抜粋】

【部活動指導員に対する専門競技の研修について（R6年度版）】

バスケットボール 連絡先 専門部長：〇〇 〇〇 勤務校：〇〇立〇〇中学校 お問い合わせ先 TEL:000-000-0000								
	月	日	時間	名称	講習内容	開催場所	参加留意点	日程把握方法
バスケットボール	6	30	9:00~12:00	DC13~15	トライアウト	高知市近辺の中学校		県協会HPニュース掲載委員会
	7	28	9:00~12:00	DC13~15	基本技能			
	9	1	9:00~12:00	DC13~15	高卒技能・チーム戦術			
	10	20	16:00	エリートニック	応用技能・チーム戦術	高知市外の中学校	録画は×（承諾必要） 見学のみの、コートサイドからの 見学は、会場に責任者に 許可を得ること。	JBAの指導者講習会申込の ページより
	12	1	9:00~12:00	DC13~15 フィジカルトレーニング メンタルトレーニング	高知市近辺の中学校			
	2	2	9:00~17:00	DC13~15 松山カップ	チーム戦術 試合（大会）	松山市の公営体育館		
	3	半定	未定	ドリームマッチ 近県招待	試合	高知市近辺の中学校		

剣道 連絡先 専門部長：〇〇 〇〇 勤務校：〇〇立〇〇中学校 お問い合わせ先 TEL:000-000-0000							
月	日	時間	名称	講習内容	開催場所	参加留意点	日程把握方法
4	14	終日	剣道伝道講習会	応用技能 指導方法	高知県立武道館等 公営の施設	剣道具一式、剣道試合審判規則及び細則の冊子を持参すること 剣道段位などは問わない、指導者・審判は全員参加可能 専門部強化部が指定した高知県強化指定選手は基本的に参加、欠席の場合は専門部に連絡 それ以外の選手、指導者のみでも参加可能	高知県剣道連盟より中体連専門部長にメール、その後専門部長より県内各校にメール配信、もしくは高知県剣道連盟HP
8	10	終日	剣道伝道講習会	応用技能 指導方法			
9	1	終日	公認審判認定講習会 （台風の日の延期）	ルール 審判方法			
10	19	半日	高知県特別強化講習会	基本技術 指導方法見学			
11	9	半日	高知県特別強化講習会	基本技術 指導方法見学			
3	15	半日	高知県特別強化講習会	基本技術 指導方法見学			

陸上競技 連絡先 専門部長：〇〇 〇〇 勤務校：〇〇立〇〇中学校 お問い合わせ先 TEL:000-0000-0000							
月	日	時間	名称	講習内容	開催場所	参加留意点	日程把握方法
7	27	10:00~17:00	国体大会前強化講習会	応用技能 メンタルトレーニング	公営の施設	グラウンドで見学しても構いませんが、状況によってはスタンドからの見学となる場合があります。動画撮影・メモOKです。 グラウンドで見学しても構いませんが、状況によってはスタンドからの見学となる場合があります。動画撮影・メモOKですが、指導者によっては動画撮影がNGになることがあります。	関係者以外に告知していません。各学校顧問に聞くか県専門委員長または強化委員長に連絡してください。
12	21	13:00~17:00	国体ブロック大会	応用技能 練習指導見学	県外の公共施設		
1	4	終日	冬季中体連強化講習会	応用技能 フィジカルトレーニング	公営の施設		
2	未定	未定	冬季中体連普及講習会	基本技術 メンタルトレーニング	公営の施設 高知市近辺の中学校	グラウンドで見学しても構いませんが、灌漑の邪魔にならないようにしてください。動画撮影・メモOKです。	

〈日本スポーツ協会公認スポーツ指導者認定者数【高知県】〉

【令和6年10月1日時点】

指導者資格名	資格別認定者数				
	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
スタートコーチ （ジュニア・ユース）	-	-	50	87	185
スタートコーチ （教員免許状所持者）	-	-	1	3	7
スタートコーチ （競技別）	40	55	81	97	84
コーチ 1	1,031	1,025	1,057	1,083	1,063
コーチ 2	72	70	76	81	73
コーチ 3	202	218	225	254	250
コーチ 4	46	46	50	48	49
アシスタントマネジャー	56	55	60	60	55
その他	142	188	248	350	417
合計	1,589	1,657	1,848	2,063	2,163

大きく増加

〈公益財団法人高知県スポーツ協会より〉

※ 1人が複数の資格を認定されている場合は、各資格欄にそれぞれ1人分を計上している。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組 オ：内容の充実

取組事項

- ・小規模な市町村や、1市町村1中学校の市町村が多い本県の特徴から、単独で取組を実施することが難しいため、近隣の自治体を交えた広域的な取組を検討した。
- ・各地域で様々な課題があることから、県主導で市町村が交流できる協議会等を開催し、市町村間の連携・協働を図った。
- ・実証事業や特徴的な取組を行っている自治体の紹介動画の作成を行い、情報発信を行った。
- ・遠方の自治体を考慮してWEBにて地域移行の説明会を行った。

・総括コーディネーターの活用

- ・総括コーディネーターを活用して、34市町村への訪問、ヒアリング、助言を行った。
- ・中山間地域の多い本県の特徴から、地域により実情や課題が大きく異なるため、訪問や協議会等へ参加した際、それぞれの地域の実情に応じた取組について具体的な助言を行った。

総括コーディネーター 会議参加の様子



取組の成果

- ・昨年度、市町村を越えた部活動地域移行に関する協議会を行った地域は、自分たちで連絡を取り合い意見交流を行うことができた。
- ・部活動改革の推進を積極的に行っている市町村に対しては連携を密にすることができた。
- ・全市町村を招集した、実証事業の報告会と市町村の意見交換会を行い、これまで部活動改革に対して、1歩目が踏み出せなかった自治体に意識付けができた。

今後の課題と対応方針

- ・まだ、具体的に動いていない市町村に対して、積極的に訪問し、これまで高知県が行った地域移行の好事例を示すなど、前向きに取り組めるよう、丁寧に説明する。
- ・今年度、中芸部地区、幡多地区で行った市町村をまたいだ協議会を、来年度は他のブロックでも行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



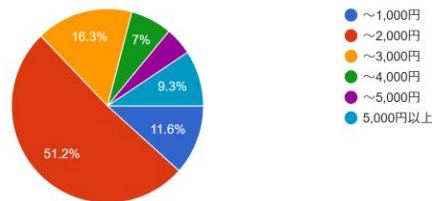
取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

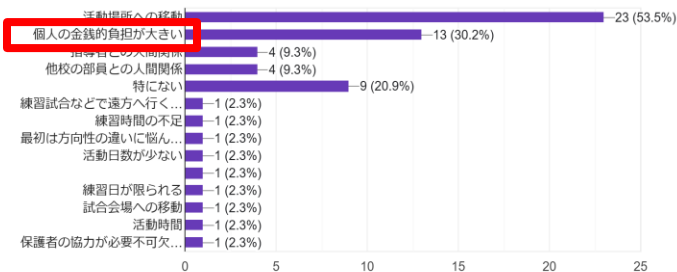
費用負担についてアンケートを行った

[調査期間] 令和6年12月27日～令和7年1月14日
[対象] ① 地域移行実証事業対象部活動保護者

地域クラブにかかる月の費用はどのくらいですか。
43件の回答



地域クラブ活動に所属して、悩んだことや困ったことを教えてください。（複数回答可）
43件の回答



保護者へのアンケートより

- ・参加した中学生の保護者43人を対象としたアンケートの結果、50%以上が、希望する月会費は1,000円～2,000円/月と回答した。
- ・金銭的負担が大きいと感じた人の割合は30.2%であった。

各地域クラブに、年間のランニングコストを出してもらい、検証を行った

＜ある地域クラブ 令和6年度の支出＞

○指導者4名の謝金	土日2日間×3時間×4人×45週×1,600円＝1,728,000円
○指導者遠征交通費	年間300,000円
○宿泊費	年間300,000円
○施設使用料	月約30,000円×12ヶ月＝360,000円
○選手遠征交通費	200,000円
○選手大会参加費	200,000円
○その他消耗品費	200,000円
◎支出合計	3,288,000円

取組の成果

- ・運営団体と家庭での負担額の部分での意識の差が大きい
- ・市町村への訪問や、地域移行検討部会などで、資金の調達方法について、企業版ふるさと納税やクラウドファンディングの活用について情報提供を行った。
- ・地域クラブ指導者の四国・全国大会（県代表）への引率旅費の支援を行った。
- ・地域クラブが地元の高校と連携することにより、高校で雇用している部活動指導員が、地域クラブの指導を行うことができた。
- ・高知県観光振興スポーツ部スポーツ課の高知県子どものスポーツ環境整備事業による財政支援の情報提供を行った。

今後の課題と対応方針

- ・運営団体では、どのように持続可能な運営経費を確保できるか、未定である。
- ・実証事業を受けて、委託金から指導者謝金を捻出することはできるが、R7年度で終了するため、R8年度を見据えると、自走できる財源の確保が必要である。
- ・今後、受益者負担と運営費用のバランスを考える必要がある。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

- ①国の実証事業を活用した取組を、今年度、新たに四万十市が加わった4市町が行い、総合型地域スポーツクラブだけでなく、市が主導するクラブを受け皿とし運営した。
- ②今年度初めて、実証事業報告会を開催し、4市町の取組を県内市町村に紹介し情報共有が図れた。また、市町村での意見交換会も行い各市町村の取組を推進することができた。
- ③今年度より広域的な活動を行う総括コーディネーターを配置し、計画的に各自治体を訪問し助言・指導を行った。
- ④地域クラブ指導者の資質向上に向けた取組を行った。
 - (1)地域クラブ指導者に対して、部活動指導員向けのオンライン研修会への呼びかけを行い、多数の参加があった。
 - (2)また、県中体連の協力のもと、中学校教員対象の研修会へ参加を呼びかけた。
- ⑤知事部局と連携を図り、各市町村との調整を行うなど、子どものスポーツ環境整備に向けた取組を行った。
- ⑥実証事業を行っている4市町を含め、地域クラブの必要経費や、その財源確保についての協議を行い、受け皿のない本県の現状では、まずは地域連携（拠点校部活動・部活動指導員）の取組から、地域展開へつなげていく市町村も多く見られる。

●成果の評価

- ①来年度、地域移行を進めていく自治体が増加する予定である。（19市町村→21市町村）本県では、地理的、人的、経済的等の課題があるため、まずは拠点校部活動等の地域連携を行い、地域移行へつなげていくことも考えられる。

地域クラブ **R 6 25部 → R 7 29部（予定）**

拠点校部活動 **R 6 4部 → R 7 14部（予定）**

- ②県中体連では、6つの競技専門部が、地域クラブ活動の指導者に対して、研修会の受け入れを行い、指導者の資質向上が図れた。
- ③市町村意見交換会にて、近隣の市町村や規模感の同じ担当者の連携を構築することができた。また、市町村をまたぐ取組が必要な地域では、教育長の地区会を実施し方向性を確認した。
- ④地域クラブを運営するためのランニングコストの検証ができた。

●今後に向けて

- ① 令和8年度以降の国の方向性を踏まえ、県の推進計画を策定するため、各市町村に対して、アンケートを実施し検討を行う。
- ②小規模校の多い本県の特徴を踏まえ、地区別担当者会等を実施し、単独での取組が難しい市町村を支援していく。
- ③県中体連と連携し、地域クラブ指導者への資質向上を図る研修会を行う。
- ④知事部局（観光振興スポーツ部スポーツ課）と連携し、中学生だけの取組ではなく、小学生を含む子どもたちが地域でスポーツ活動ができる環境作りを目指す。

2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者の声

部活動地域移行に関するアンケート調査結果〈概要〉

〔目的〕部活動地域移行実証事業を行う4市町の対象者に対して、取組内容についての満足度や悩み（課題）等を調査し、今後の取組に活用する。

〔対象期間〕令和6年12月～令和7年1月（南陽市、越前町、四万十市、土佐清水市）

〔対象〕生徒45人、保護者43人、教員5人、運営団体3団体

〈生徒〉

質問内容

○地域クラブに参加してどうだったか

満足	やや満足	やや不満	不満
73.3%	22.2%	4.5%	0%

○地域クラブに参加した理由（複数選択可）

- ・学校部活動より専門的な指導が受けられる：68.9%
- ・他校の友達と一緒に活動できる：28.9%
- ・小学校から継続して地域クラブで活動している：15.6%

○所属して良かったこと（複数選択可）

- ・専門的な指導が受けられる：73.2%
- ・他校の生徒と友達になれた：53.3%
- ・自分のレベルにあった指導が受けられる：37.8%

○所属して悩んだことや困ったこと（複数選択可）

- ・特になし：51.1%
- ・活動場所への移動：24.4%
- ・部員との人間関係：20%

〈保護者〉

質問内容

○地域クラブに参加してどうだったか

満足	やや満足	やや不満	不満
44.2%	41.9%	14%	0%

○地域クラブに参加した理由（複数選択可）

- ・学校部活動より専門的な指導が受けられる：55.8%
- ・小学校から継続して地域クラブで活動している：18.6%

○所属して良かったこと（複数選択可）

- ・専門的な指導が受けられる：61.9%
- ・他校の生徒と友達になれた：42.9%

○所属して悩んだことや困ったこと（複数選択可）

- ・活動場所への移動：53.5%
- ・金銭的負担が大きい：30.2%

○地域クラブにかかる月の費用

1,000円未満	～2,000円	～3,000円	～4,000円	～5,000円	5,001円以上
11.6%	51.2%	16.3%	7%	4.6%	9.3%

質問内容

○地域クラブの取組をどう感じているか

満足	やや満足	やや不満	不満
20%	60%	40%	0%

○教員の働き方改革につながっているか

- ・つながっている：20%
- ・ややつながっている：40%
- ・つながっていない：40%

●前項で「（やや）働き方改革につながっている」と回答した理由

- ・休日や放課後における教材研究等の時間が確保できる。
- ・部活動を行っている時間に教材研究やその他職務に取り組むことができる。

●「働き方改革につながっていない」と回答した理由

- ・地域クラブへ在籍している生徒が、平日は学校で練習するため、また、報告書の作成など事務作業が増えている。
- ・地域クラブと学校部活動を選択できるため、まだ、学校に部活動が残っている。

○地域クラブ活動について良かったこと（複数選択可）

- ・教員の負担が減った：60%
- ・生徒が意欲的に取り組むようになった：60%

○地域クラブ活動について感じる課題（複数選択可）

- ・生徒の活動や活躍が広がりづらい：60%
- ・これまで部活動が担っていた教育的意義の継承：40%

〈運営団体〉

質問内容

○地域移行に関わってどう感じているか

満足	やや満足	やや不満	不満
0%	33.3%	66.7%	0%

○地域クラブの実施までに準備が必要と思うもの（複数選択可）

- ・学校・教育委員会との連携・調整：100%
- ・生徒・保護者への説明：100%

○地域クラブ活動に関わって良かったこと（複数選択可）

- ・地域の中学生がやりたい活動ができる：66.7%
- ・小学校から継続して活動できる：66.7%

○部活動の地域移行に関わって悩んだことや困ったこと（複数選択可）

- ・人材の確保：66.7%
- ・指導者謝金の確保：66.7%
- ・指導者不足：33.3%

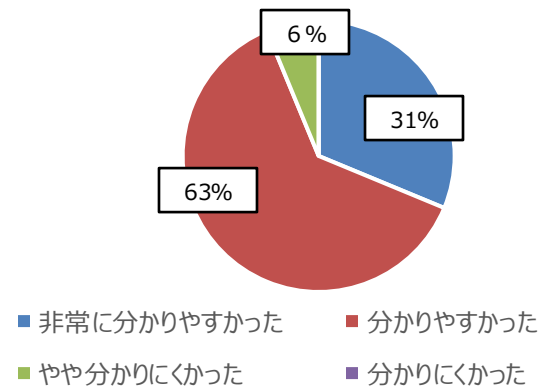
○資金調達の方法

- ・市町村からの補助金：66.7%
- ・会費：66.7%
- ・その他：地元団体等からの寄付、奉加振 等

アンケート結果・参加者の声

・部活動改革に向けた県内地域移行実証事業の報告会及び市町村意見交換会事後アンケート【抜粋】

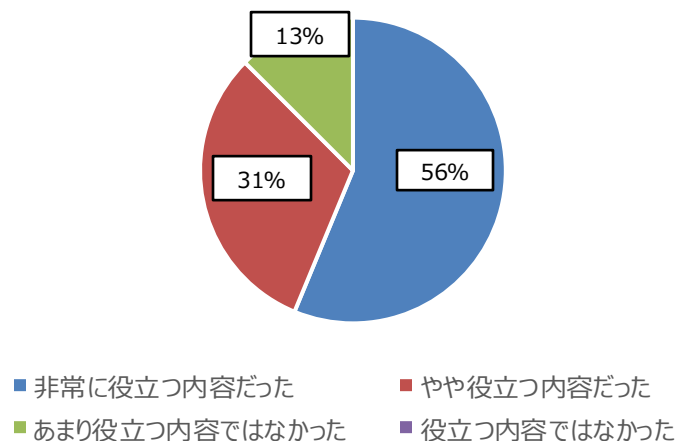
説明はわかりやすかったですか



会の感想（一部抜粋）

- ・地域移行、地域連携に向けた協議を関係者が重ねていくことが大切であると感じました。他市町村の貴重な意見を聞くことが参考になりました。会場準備、運営等ありがとうございました。
- ・市町村によって参加人数にばらつきがあったこと、持ち帰っての取り組みへ還元するならば、管理職ないし役職持ちの人が各市町村1名いてもよかったかもしれない。
- ・実証事業を実施されている市町村の、取組の具体を直接お聞きすることができた貴重な機会だったと感じました。もう少し時間があれば、もっとさまざまなことがお聞きできたかと思いました。またこのような機会を設けていただけたら大変ありがたいです。
- ・グループ協議について、市町村の規模や同じような課題を抱える市町村のグループであったため、地域移行の流れや、移行後の課題等参考となる話を聞くことができた。

今後に役立つ内容でしたか



今後の要望（一部抜粋）

- ・グループワークでは、他の実証事業を行った市町村とも話をしてみたかったです。ZOOMでの開催もありだと思います。
- ・意見交換をする際、同じぐらいの市町村規模でまとめてほしい。
- ・継続的に本会のような会を継続していただけると、情報共有の場となり、好事例を参考に本市に反映させられると考える。
- ・県の今後における取り組みの中で、推進計画を立てる際には郡部の市町村にも配慮した計画を立てていただきたい。
- ・会議時間が1時間半と短く、往復5時間かけて行くことが業務上難しい。今後はオンラインも含めて対応願いたいです。

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【第3回地域連携検討部会の様子】



【第4回地域連携検討部会の様子】



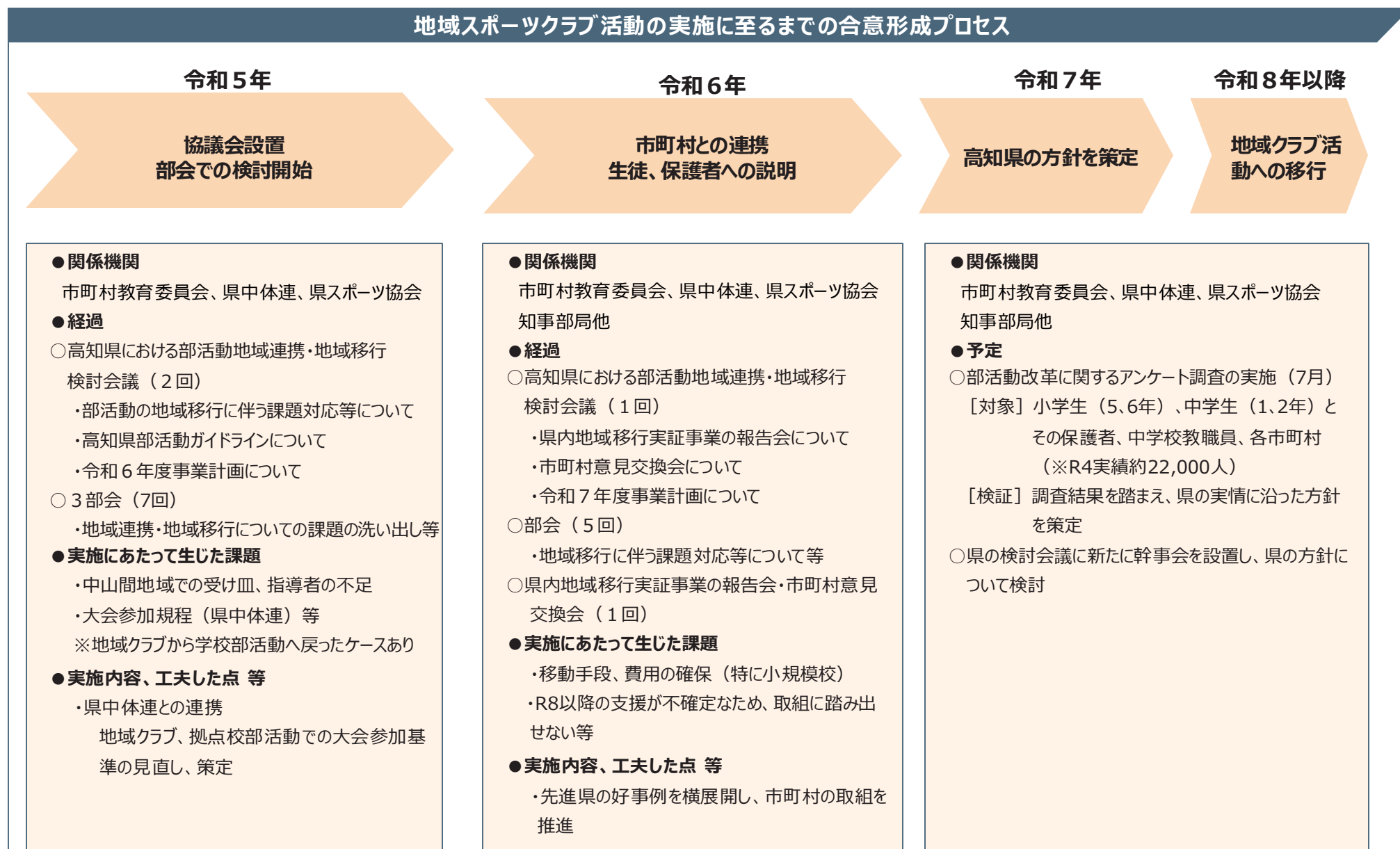
【第3回高知県における部活動地域連携・地域移行検討会議】



【第3回高知県における部活動地域連携・地域移行検討会議】

2.実証内容と成果

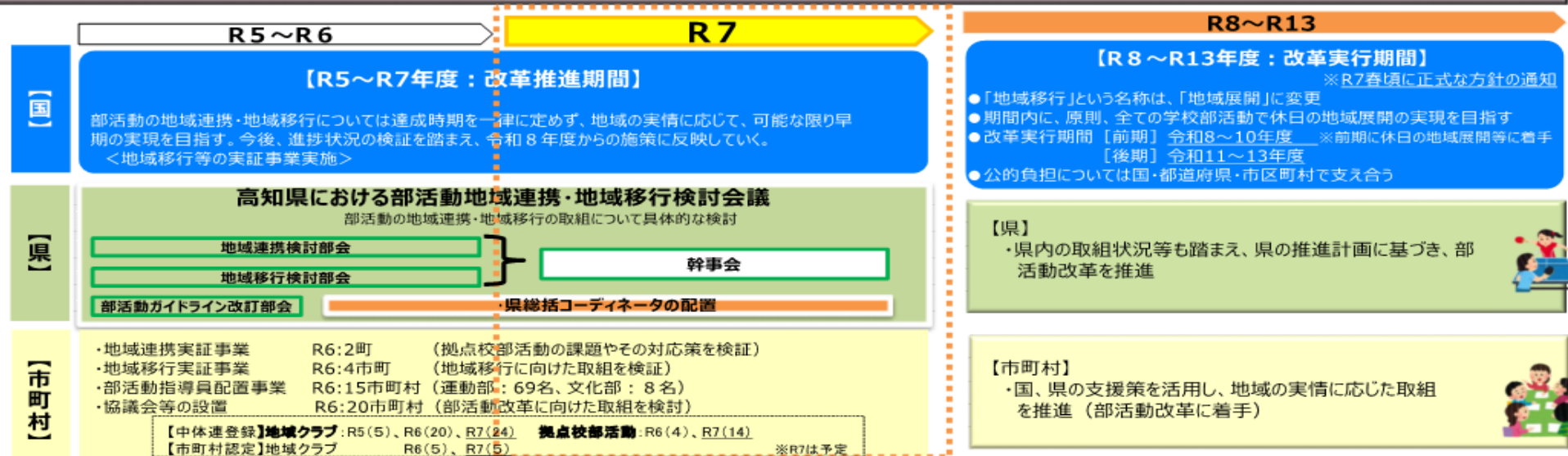
地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

高知県における今後の部活動改革に係る取組について



令和7年度取組について

県取組について

高知県における部活動地域連携・地域移行検討会議

- <1> 子どもたちがスポーツ、文化芸術等に継続して親しむことができる持続可能な環境整備をするため、**部活動改革に係る推進計画を令和7年度中に作成**
- <2> 国の支援等を活用するなど、**令和8年度以降の事業内容の検討**

【主な日程】

- ・5月～7月 幹事会にて推進計画（案）の作成
- ・9月 第4回検討会議にて推進計画（案）の作成
- ・10月～11月 市町村、関係機関へ推進計画（案）について意見収集
- ・12月 推進計画の策定及び各市町村への通知
- ・1月 第5回検討会議にて、次年度の事業計画等の協議

市町村取組について

- ・協議会等を設置し、各市町村の実情に応じた、「子どもたちがスポーツ、文化芸術等に継続して親しむことができる持続可能な環境」を整備するための検討や、推進計画等を策定

【検討事項】

- 部活動コーディネーターの配置
- 指導者の質の保証・量の確保
 - ・研修への参加、教師の兼職兼業、大学生・地域おこし協力隊の活用 等
- 財源の確保（基金の創設等）
- 活動場所への移動手段
 - ・スクールバスの有効活用、地域公共交通との連携 等
- 生徒・保護者等の関係者の理解促進
 - ・学校・生徒・保護者等へのアンケートの実施、広報 等
- 近隣市町村との連携

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

高知県南国市

自治体名：高知県南国市

担当課名：学校教育課

電話番号：088-880-6568

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	125.4 km ²
人口	45,977人 (R6.5)
公立中学校数	4 校
公立中学校生徒数	933 人 (R6.5)
部活動数	29 部活 (R6.4) ※文化部活動を除く
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	南国市運動部活動改革推進委員会 (R2設置)
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	検討中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

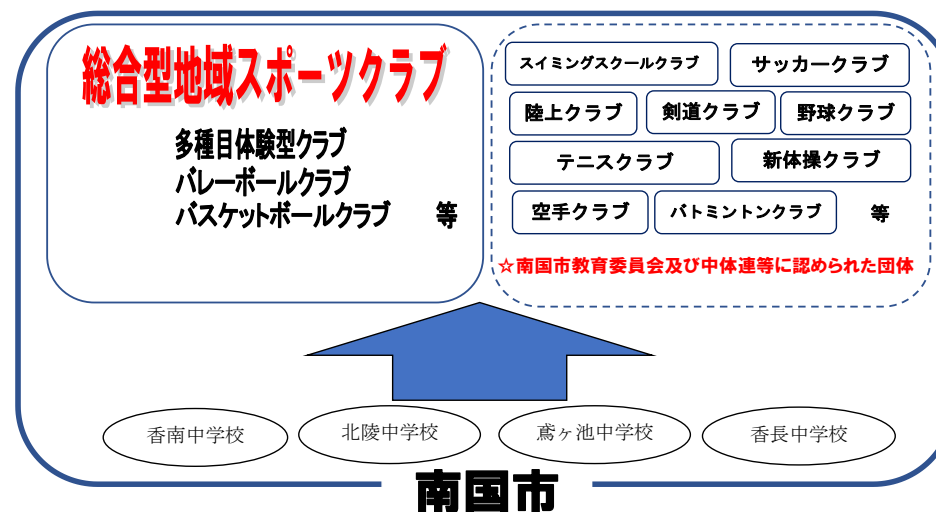
南国市には生徒数530名の香長中学校から189名の北陵中学校、145名の鶯ヶ池中学校、69名の香南中学校の4校がある。運動部活動数には違いはあるが、加入率は今年度52.3%と以前と比べると減少傾向にある。原因としては、生徒アンケートによると、やりたい運動スポーツが学校にないこと、学校に専門的な指導者がいないこと等の理由が挙げられる。

部活動の顧問は、どの学校も複数指導体制を敷いているが専門的に指導が可能と言っている教員（顧問・副顧問）は南国市55.2%となっているため、部活動指導員を7名配置して対応しており成果が上がっている。

地域移行・連携に関して教員、保護者、地

域の理解は進み、一方これまでに総合型地域スポーツクラブ（バレーボール、バスケットボール、多種目体験型クラブ）と地域クラブ（柔道、バレーボール）に移行することができた。しかしながらクラブによっては運営費用に苦慮し保護者の負担が増大する懸念を抱えているところもある。今後の課題の最たるものは教員に代わっての資質指導力ある指導者の確保であり、その報酬費などどのように担保するかである。

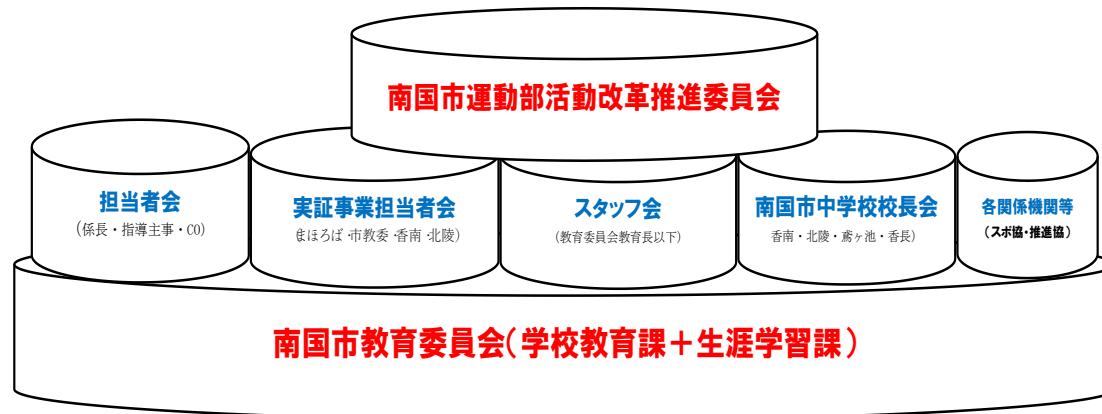
また、令和8年度からの改革実行期間にあたり市内全中学校の部活動をそれぞれの学校の現状に応じたどのような移行・連携の形にするのかの明確な方向性を提示することもこれからの大きな課題である。



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・学校教育課＆生涯学習課
部活動改革推進委員会開催、課内協議、まほろばクラブ南国との連携、学校並びに関係機関との連携、保護者市民への対応
- ・学校教育課
県保健体育課、県・支部中体連、県スポーツ協会との連携
- ・生涯学習課
学校並びに社会体育施設等の管理運営

◎首長部局

財政的措置

年間の事業スケジュール

- | 月 | 事業内容 |
|-----|--|
| 4月 | 部活動総括コーディネーター 同コーディネーター配置
担当者会 改革推進実証校（香南・北陵）との協議
まほろばクラブ南国との協議 |
| 5月 | 担当者会 第1回スタッフ会 実証事業担当者会
まほろばクラブ南国との協議 |
| 6月 | 担当者会 第1回部活動改革推進委員会 中学校校長会
まほろばクラブ南国との協議 |
| 7月 | 担当者会 改革推進実証校との協議 実証事業担当者会
まほろばクラブ南国との協議 |
| 8月 | 担当者会 第2回部活動改革推進委員会
まほろばクラブ南国との協議 |
| 9月 | 担当者会 実証事業担当者会 まほろばクラブ南国との協議 |
| 10月 | 担当者会 第2回スタッフ会 中学校校長会
改革推進実証校との協議 まほろばクラブ南国との協議 |
| 11月 | 担当者会 第3回部活動改革推進委員会
南国市小中校長会 まほろばクラブ南国との協議 |
| 12月 | 担当者会 実証事業担当者会 まほろばクラブ南国との協議 |
| 1月 | 担当者会 第4回部活動改革推進委員会
改革推進実証校との協議 中学校校長会
まほろばクラブ南国との協議 |
| 2月 | 担当者会 第5回部活動改革推進委員会
まほろばクラブ南国との協議 実証事業担当者会
第3回スタッフ会（今年度のまとめと来年度の取り組み） |
| 3月 | 担当者会 実証事業担当者会 改革推進実証校との協議
まほろばクラブ南国との協議 |

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	4 校	実施した地域クラブ総数	3 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		2 クラブ
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		1 クラブ
全体の指導者数	4 名	全体の運営スタッフ数	4 名

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
まほろばクラブ 南国	総合型 地域 スポーツ クラブ	バレーボール	5 回 / 週	16:30～ 18:30	1年4名 2年3名 3年6名	通年	香南中学校 北陵中学校	2 人	2人（兼務）	500円/月	中体連大会へ
		バスケットボール	5 回 / 週	16:30～ 18:30	3年1名	通年	香南中学校	1 人	1 人	500円/月	なし
		多種目体験型 クラブ	3 回 / 週	16:30～ 18:30	1年2名	通年	香南中学校	1 人	1 人（兼務）	500円/月	なし

③その他、体験会やイベント等の開催実績

2.実証内容と成果

主な取組例

●まほろばクラブ南国 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バレーボール バスケットボール（活動休止中） 多種目体験型クラブ
運営団体名	NPO法人まほろばクラブ南国 （総合型地域スポーツクラブ）
期間と日数	通年での活動 女子バレーボール：5回/週 多種目体験型クラブ：3回/週
指導者の主な属性	教員（兼職兼業）、クラブ指導員
活動場所	香南中学校、南国市立スポーツセンター
主な移動手段	徒歩 自転車 自家用車 公用車 クラブ所有バス
1人あたりの参加会費等（年額）	6,000円 / 月
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●クラブ代表

役割：クラブ全体を統括し、その責任を負う。

クラブから講習や合同練習、体験会等の企画を行う。

●指導者（監督・コーチ） 3名（バレー2名、多種目1名）

役割：生徒の指導にあたる。

練習計画を立案する。

●コーディネーター

役割：クラブ、指導者、学校関係者の意思疎通が図れるよう、連絡をつなぐ。

練習計画発出等の生徒向けの資料作成、保護者対応を行う。

大会参加申込等の事務手続きを行う。

●窓口教諭

役割：学校行事や生徒の様子で気になる点などをクラブに伝える。

学校体育館の使用状況を他の部活動と調整する。

※ただし、これらの業務もコーディネーター、クラブへと徐々に移行中。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備 / ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- ①部活動改革推進委員会の開催
- ②改革推進実証校（香南・北陵）との協議
- ③中学校校長会での協議
- ④まほろばクラブ南国との協議
- ⑤県保健体育課と県中体連との連携
- ⑥スタッフ会

コーディネーターの具体的な動きの実績

- 総括コーディネーターとコーディネーター（まほろばクラブへ出向）
- ・部活動改革推進委員会の計画と実施
- ・地域移行に向けてのまほろばクラブとの連携協力
- ※移行期間中のバレーボールクラブの運営（事務、経費、引率、広報など）
- ※多種目体験型クラブ指導
- ・地域移行に向けた地域クラブ設立への支援と県中体連への加盟手続き
- ・改革推進実証校の地域移行への保護者説明会の実施
- ・部活動指導員への活動支援と研修講習の実施
- ・市スポーツ協会主催の指導者講習会開催への協力
- ・指導者への指導者資格取得への援助
- ・地域の指導者と意見交換
- ・市内中学校運動部活動の視察による現状把握と顧問との意見交換
- ・県保健体育課や県中体連との協議や懇談等
- ・市中学校運動部活動ガイドライン改定作業

取組の成果

- ①幅広い立場の委員からの声を集めることができた。委員の力強い支援が本市の地域移行の礎となった。
- ②先進的な取り組みには課題も多かったが、両校の校長の協力により成果が上がっている。
- ③特に部活動ガイドラインの改定にあたっては学校現場の理解を得ることができ、更に地域移行に関しての教職員の意識改革が図れた。
- ④常に情報共有を行うことで移行の実際の進捗状況を確認できた。軌道修正を適宜行うことで取り組みが発展した。
- ⑤必要に応じて指導助言をもらいタイムリーな情報を得ることができた。また課題や問題提起をすることで互いに一体感が醸成された。
- ⑥本市教育長をトップとした地域移行に向けての教育委員会の最高機関であり風通しの良い組織となっている。

今後の課題と対応方針

- ・推進委員会には毎回全員の出席がかなわず工夫が必要。委員からの移管提言には真摯に対応しなければならないが、事務局の取り組みのスピード感に欠けることがあった。
- ・今後、指導者の確保が必須だが、資質・指導力向上に向けての研修会などについては市スポーツ協会等とより確かな見通しを持ち綿密な計画が必要である。地域移行の視点のみならず、生涯スポーツから人づくり構想へとの大局観が必要である。
- ・指導者への謝金や旅費といった金銭的負担の課題もある。今後は、中学校全国体育大会を目指す生徒が、どの団体で競技を続けても不利益が出ないような配慮が必要となってくる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

部活動指導員に対しては生徒と直接的に抱え割り合うことから本市としては以下の内容を用意した。

- 1) ハラスメントいじめ対応
- 2) 救命講習
- 3) ゲートキーパー研修
- 4) ペップトーク
- 5) 求められる指導者像

またスポーツ協会の主催する講習会にはスポーツに係る市民対象にペップトークと求められる指導者像について用意をした。

受講者の声

部活動指導員からはハラスメントいじめ対応、救命講習等全てにおいて好評であった。指導員として日々生徒に向き合っていることから必要性を理解していただいたように思う。ただし開催時間が昼間であって仕事時間とかぶっての実施であったため迷惑がかかったように思う。

指導者研修の参加実績

部活動指導員

ハラスメントいじめ研修 4月8日 4名/7名

救命講習 6月10日 5名/7名

ゲートキーパー研修 7月30日 3名/7名

ペップトーク 8月21日 2名/7名

求められる指導者像 10月6日 3名/7名

市民

ペップトーク 8月21日

求められる指導者像 9月22日 10月6日

※3回の参加人数 56名

今後の課題と対応方針

南国市内には社会体育関係団体が約140あり、その中でも小中学生の団体が約50存在する。これらの団体は子どもを直接的に指導していることからこの研修の参加の状況を見ても寂しいと言わざるを得ない。これは団体側の指導者としての意識の低さかも分からないが、行政や主催者の反省点であるともいえる。今後は関係者の意識改革と取り組みに工夫が必要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実① / キ：学校施設の活用等

取組事項

女子バレーボールクラブを中心とした活動の中で、4点（①保護者会の実施や規約作成 ②ユニフォーム、Tシャツの作成 ③地域大学との関わりの構築 ④生徒への聞き取り調査の実施 ⑤練習場所、練習日程・時間の調整）の取り組みを集中的に行った。

活動の詳細

①保護者会の実施や規約作成

第1回：5月17日	・規約（案）作成、提示 ・クラブ費、諸費用の出所の確認 ・新連絡網の作成、窓口係の決定 ・移動手段の確認、意見交換等 ・学校施設利用の調整等
第2回：7月27日	・（新チームスタートと同時に）規約確定、施行 ・ユニフォーム、Tシャツの作成に関する意見交換 →作成が決定、手順等整理 ・保護者会長、副会長の選定
第3回：12月21日	・活動時間変更に関する意見交換 →1月から平日の活動時間の変更を実施 ・チームカラーについての意見交換 ・体験会の開催について （クラブ員確保に向けた取り組み）

②ユニフォーム、Tシャツの作成。

複数案を提示し、生徒の意見を集約して作成依頼。



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

活動の詳細

③地域大学との関わりの構築

・女子バレーボールクラブは高知工科大学との合同練習会を実施。

・多種目体験型クラブは、高知大学地域協働学部まほろば実習班と連携。



④生徒への聞き取り調査の実施

主に活動時間、活動頻度、活動内容、生徒からの要望に関する聞き取りを行った。（10月実施）

そこで、来年度以降どのように活動していきたいのか、学校の部活動と比較して不便がないか等について聞き取った。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

●まほろば南国バレーボールクラブ保護者会より【保護者の意見】

取組の成果

- ①保護者会を定期的に実施することで、リアルタイムで抱えている問題点や課題を発見することにつながった。また、保護者の意見と生徒の考えが異なる場合もあり、生徒が活動しやすい環境を設定するための各方面からの意見の取捨選択が必要ながわかり、現実的かつ運営組織の活性化につながる意見を反映できるようになった。
- ②クラブとしてのユニフォーム、Tシャツを作成することで、バレーボールクラブに所属する生徒の活動意欲が芽生え、一体感を生み出した。また、生徒や保護者の不安点を解消することができた。
- ③中学生にとって、お兄さんお姉さんの存在である大学生との関わりを持つことによって、技術の向上はもちろん、自身の活動キャリア（中学生卒業後）のスポーツとの関わりを考えながら活動することで、一部ではあるが、長期的なスポーツライフを考えた取り組みができるようになった。
- ④生徒が日々不安に思っていることが判明した。その中で、次年度以降の活動形態の不明瞭さ、クラブ員不足への懸念があると分かり、活動形態の変更につながった。実際にR7年1月より、活動時間を変更して練習を実施することになった。

今後の課題と対応方針

地域で独自に立ち上げたクラブと異なり、部活動から地域移行・地域連携を図っているため、クラブの方針を独自で決めることができていない。そのため、生徒や保護者から、地域の他クラブに比べて、運営方針や目標等が不明瞭な点がある。活動を進めていく中で、クラブ内でもっと協議を重ね、クラブの運営形態・方針等をより明確にしていく必要がある。

また、大会参加費等、受益者負担が増える可能性もあるため、費用の捻出方法も課題となる。今後、生徒を他校からも集めるとなった場合には、送迎方法の多様化は避けられず、生徒を送迎できる手段を考える必要もある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

〈地域クラブの設立〉

地域クラブとして、香長オールスターズが新設された。香長中学校の女子バレーボール部が近年の部員不足からクラブ組織に変わることで、近隣から生徒を集め活動を活性化しようと令和6年8月より県中体連に加盟。

取組の成果

部活動と違い、はっきりとした方針と理解のもと活動ができる。生徒も部活動より高度な指導を望み積極的である。

課題としては、部活動から離れたことで学校（PTA）からの援助がなくなり、費用面で運営に苦慮している。

指導者の属性や配置の工夫

・指導者の属性

これまでの顧問が兼職兼業の措置で対応している。指導スタッフは他3名（講師や自営業者）。なお、この顧問は県選抜チームの監督を務めたこともある一流の指導者である。

今後の課題と対応方針

前述したとおり、運営費に苦慮している。今後会費の値上げも検討している。



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

〈地域クラブの設立〉

これまでのクラブ（中学生、小学生、幼児）の方針から、中体連に加盟することで方針を一部変更する。クラブとして中体連の大会にも出場するようになった。令和6年5月に県中体連に加盟。

取組の成果

学校に柔道部のない生徒をはじめ、広く受け皿となった。
今夏の県総体では個人戦で入賞者が出た。
課題は運営費や遠征費に苦慮していることである。

指導者の属性や配置の工夫

・指導者の属性
教員、警察官、自営業者などで運営



総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

本市では部活動の地域移行を①「子どもが運動スポーツに親しむ機会を確保する」、教師、保護者だけでなく②「地域の大人が指導者として関わる」、③「教員の働き方改革につなげる」というこの3つを基本に、全ての学校の生徒が自分の望む運動ができる環境を整えることを目的として、令和5年度からこの事業を推進してきた。南国市では総合型地域スポーツクラブまほろばクラブ南国（以下「まほろば」）の存在は大きく老若男女、誰もが自分の意思と能力に応じて運動スポーツに親しむ機会が保証されている。香南中学校と北陵中学校での実証事業は、「まほろば」の献身的で真摯な取り組みにより成果が徐々に見え始めた。部活動の地域移行が目に見える形になったこと、「まほろば」と学校、教育行政が三位一体となっていること、そのことが保護者市民をはじめ地域に部活動の地域移行が認知（市議会の一般質問にも上がったこと）されてきたことで着実に部活動の地域移行は進んでいる。

今年度は、その他の地域クラブも立ち上がり、それぞれ活動を始めたことや来年度にも新たな地域クラブが発足するという情報も寄せられている。また、学校現場では、教員から地域移行を望む声が聞かれるのも事実である。

しかしながら、学校の運動部活動を地域移行する場合には、指導者の確保と、これまで市や保護者が負担していなかった指導者への謝金や旅費といった金銭的負担等、様々な課題がある。今後は、中学校全国体育大会を目指す生徒が、どの団体で競技を続けても不利益が出ないような配慮が必要となってくる。多くの関係者が一致協力、英知を集結してこの部活動改革を成功させなければならない。

●成果の評価

総括に記載

●今後に向けて

総括に記載

※今後も、大小の課題をひとつひとつ明確にし、その問題点と解決策を明らかにし、短中長期の目標を立て、誰が（どこが）いつまでにどのように取り組むのかを示していく。

2.実証内容と成果②

聞き取り調査結果・参加者の声

●聞き取り調査結果より

調査対象	まほろば南国女子バレーボールクラブ所属の1・2年生 8名 (内訳: 香南中2年生3名、香南中1年生3名、北陵中1年生2名)
調査日時	令和6年10月10日(北陵中2名)、10月17日(香南中6名)
調査方法	対面、聞き取り方式(※周囲の意見は関係なく答えられる環境)
調査に至った経緯	生徒や保護者が現状の活動に不安を抱いていること(来年度新入生が入ってくるのか、広告を早めに行いたい活動時間等の来年度の運営方針が確定していないためできないなど)が保護者の声により判明し、「生徒に聞いてほしい」という意見があった。そこで、クラブとして現存会員の想いを大切にしながらより適切な運営方法を考えていくため、調査を実施した。
調査内容	●活動日時 ・(香南中生徒は)平日について放課後すぐに活動したい思いはあるが、他校から新入生も入ってほしい、クラブの人数を増やしたいという思いから、活動時間の変更はやむを得ないと考えている。 ・全員でそろって練習を始めることが、チーム力向上にもつながる。 ・塾など、既存の習い事との関係性(私用)を考える必要もある。 ●活動内容 ・動画で学ぶ時間も効果的。 ・バレーにつながるトレーニングや食事の学習もしたい。 ●活動の変化 ・(現2年生は)不自由なく部活動から変化できていると感じる一方、クラブとしてのメリットを生かしきれていないと感じている。 ・テスト期間やボランティア活動への参加についても、チームで方針を統一して活動しやすい状況を作りたい。

生徒の意見をもとに、指導者、関係各校、教育委員会事務局と打ち合わせ、課題や今後の方針を整理。→12月保護者会に諮った

2.実証内容と成果③

広報資料



まほろば南国

女子バレーボールクラブ

【活動場所】・香南中学校、北陵中学校 体育館
【活動日時】・月、火、水、金曜日 16:30～18:30
(冬季は日没に合わせて早く終わります)
・土曜日 8:30～11:30
(練習試合、大会等により変更があります)

えみかつ「笑勝」

生徒同士で目標や練習メニューを決め、楽しく活動中！
初心者も大歓迎！！

「ポイント突破、難いトスをしない、」
「バレーボールは、チームワークが大切で、自分一人の力で勝つことはできません。」「
「バレーボールは、チームワークが大切で、自分一人の力で勝つことはできません。」「
「バレーボールは、チームワークが大切で、自分一人の力で勝つことはできません。」「

女子バスケットボールクラブ

【活動場所】・香南中学校 体育館
【活動日時】・月、火、水、金曜日 16:30～18:30
(冬季は日没に合わせて早く終わります)
・土曜日 8:30～11:30
(活動を行わない週もあります)

初心者も大歓迎

仲間と一緒に

楽しく笑顔で

「ポイント突破、難いトスをしない、」
「バレーボールは、チームワークが大切で、自分一人の力で勝つことはできません。」「
「バレーボールは、チームワークが大切で、自分一人の力で勝つことはできません。」「
「バレーボールは、チームワークが大切で、自分一人の力で勝つことはできません。」「

多種目体験型クラブ

【活動場所】・香南中学校 グラウンド
【活動日時】・平日:2日間、土曜日午前中
*今後の様子を見て正式に決定します。

気軽に 楽しく

バドミントン、スポーツ鬼ごっこなど、
様々なスポーツをみんなで楽しく行います！
色々な種目に触れるチャンス！！

「ポイント突破、難いトスをしない、」
「バレーボールは、チームワークが大切で、自分一人の力で勝つことはできません。」「
「バレーボールは、チームワークが大切で、自分一人の力で勝つことはできません。」「
「バレーボールは、チームワークが大切で、自分一人の力で勝つことはできません。」「

★全クラブ会員募集中★

*活動場所や活動日時は今後の状況により変更になることがあります。

【お問い合わせ】 南国市立スポーツセンター内 まほろばクラブ南国
高知県南国市前浜1344-3 TEL:088-865-8015 担当:赤穂(アカホ)

【お問い合わせ】 南国市立スポーツセンター内 まほろばクラブ南国
高知県南国市前浜1344-3 TEL:088-865-8015 担当:赤穂(アカホ)

【年度当初広報チラシ】

まほろば南国 女子バスケットボールクラブ

6月15日(土)

◆時間:13:00～15:00
◆場所:香南中学校体育館
◆参加費:無料
◆持ち物:室内シューズ、飲み物、タオル
◆対象:小学5年生～中学2年生女子

体験会開催

初心者大歓迎！！

【指導者】
まほろば南国
女子バスケットボールクラブ
濱田 洋誠 (はまだ ようせい)

「気軽にバスケットボールを始めたい」
「バスケットボールに興味があるけど一歩踏み出せなかった」
そんな方はこの機会に挑戦してみませんか？

【お問合せ・お申込】
特定非営利活動法人 まほろばクラブ南国
(南国市立スポーツセンター内)
TEL:088-865-8015
FAX:088-865-8016
担当:赤穂(アカホ)

【お問合せ・お申込】
特定非営利活動法人 まほろばクラブ南国
(南国市立スポーツセンター内)
TEL:088-865-8015
FAX:088-865-8016
担当:赤穂(アカホ)

【バスケットボール体験会チラシ】

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【部活動改革推進委員会】



【女子バレーボールクラブ 活動の様子】



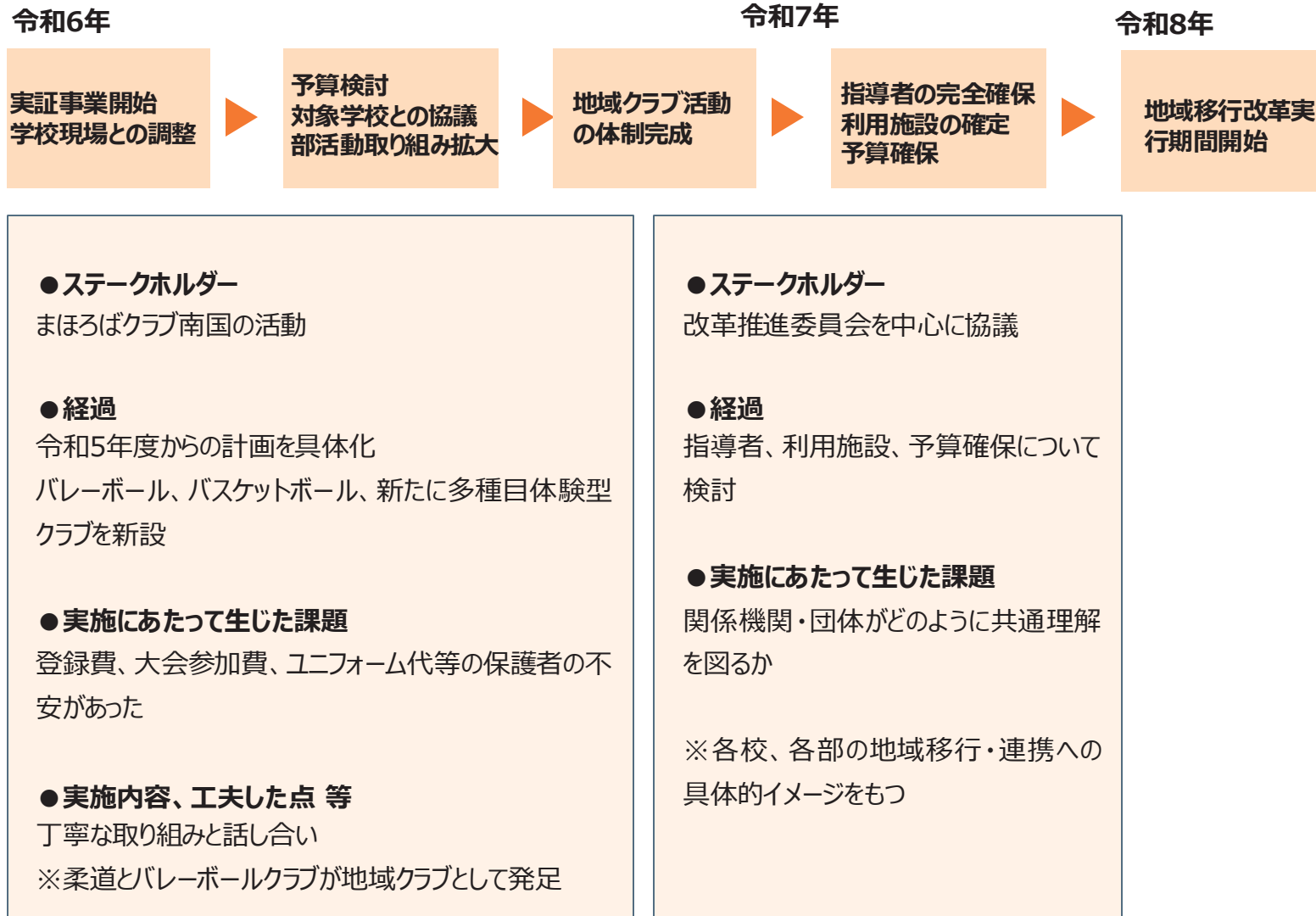
【多種目体験型クラブ 活動の様子】



【女子バスケットボールクラブ 体験会の様子】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

学校名	部活動名	R6	R7	R8
香南中学校	☆女子バレー	まほろばクラブ南国 ※実証事業【学校代表者】	まほろばクラブ南国 ※実証事業 【鷹ヶ池・香長へ募集広報】	まほろばクラブ南国 完全移行
	☆女子バスケット	まほろばクラブ南国 ※実証事業【学校代表者】		
	☆多種目体験型	まほろばクラブ南国 ※実証事業	まほろばクラブ南国 ※実証事業 【北陵・鷹ヶ池・香長へ募集広報】	まほろばクラブ南国 完全移行
	サッカー	合同チーム	合同チーム	合同チーム
	卓球		検討開始	
	☆男子バレー(新)	協議中(まほろばクラブ南国)	まほろばクラブ南国	まほろばクラブ南国
	野球(新)	協議中(拠点校方式) ※鷹ヶ池・香長	※拠点校方式	拠点校方式
北陵中学校	☆女子バレー	まほろばクラブ南国 ※実証事業【学校代表者】	まほろばクラブ南国 ※実証事業 【鷹ヶ池・香長へ募集広報】	まほろばクラブ南国 完全移行
	サッカー	合同チーム	合同チーム	合同チーム
	その他	バスケット: 部活動指導員配置	検討開始	
	柔道【岡豊ジュニア柔道クラブ】	地域クラブ立ち上げ	地域クラブ	地域クラブ
鷹ヶ池中学校	サッカー	合同チーム	合同チーム	合同チーム
	野球	合同チーム(土佐町・嶺北)	検討中(拠点校・合同チーム)	
	その他	陸上・卓球: 部活動指導員配置	検討開始	
香長中学校	女子バレー【香長ALL STARS】	地域クラブ立ち上げ ※部活動から	地域クラブ	地域クラブ
	その他	バスケット: 部活動指導員配置		検討開始
	柔道【岡豊ジュニア柔道クラブ】	地域クラブ立ち上げ	地域クラブ	地域クラブ
	※相撲	地域クラブへ(香南市へ)	地域クラブ	地域クラブ

☆学校外クラブでの活動(新体操・バドミントン等検討)

【拠点校方式】とは

在籍校に希望する部活動がない場合に、参加を希望する生徒を
ひとつの学校が受け入れる方式。

【合同チーム】とは

部活動で競技の出場人数に満たさない学校同士で組むチーム。

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

高知県 土佐清水市

自治体名：高知県土佐清水市

担当課名：生涯学習課

電話番号：0880-87-9133

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	266.5 km ²
人口	11,973 人
公立中学校数	1 校
公立中学校生徒数	174 人
部活動数	11 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本市では、令和4年度に2部活動を地域移行、令和5年度は地域移行が3部活動となり、また地域連携として2部活動を実施してきた。令和6年度は、地域移行が2部活動、地域連携は3部活動で活動している。

事業を実施するにあたり関係機関での意見交換の場として、検討・運営会議を年3回開催している。この検討・運営会議では、中学校・市教育委員会・地域スポーツクラブ・部活動指導者・スポーツ推進委員等を委員として、課題を整理し今後の部活動の方向性について協議している。

課題としては、指導者の後継者不足の問題、予算上の問題、地域クラブでの指導者資格の問題、

部活動加入者の減少による部活動自体の存続の問題も挙げられた。また、中学校で継続してきた部活動を高校でも継続ができるよう、今後においては高校とも連携した活動を検討していく必要がある。

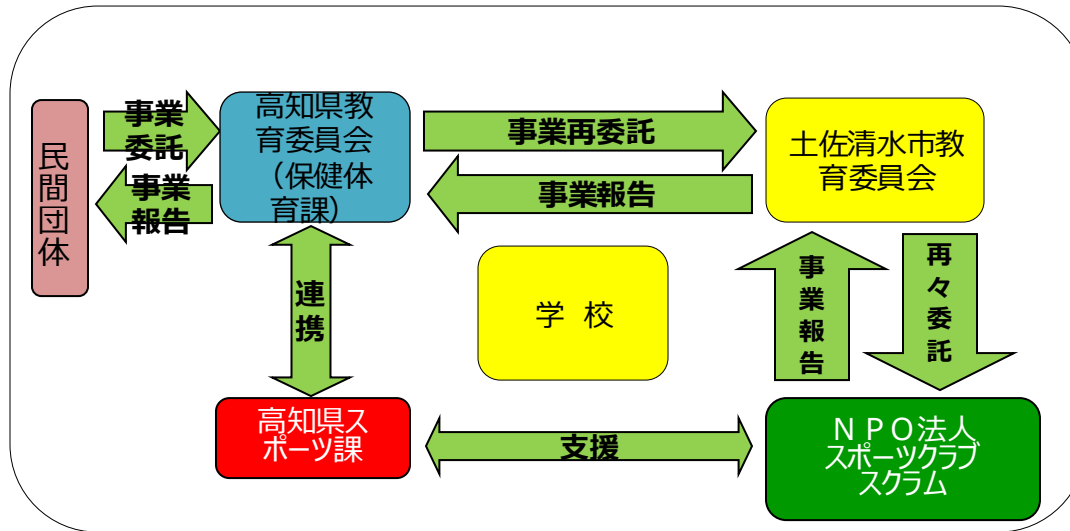
硬式テニスについては、令和6年度より高校に硬式テニス部を発足させ、中学生と高校生と一緒に練習を行うなど、連携した取り組みができている。

子ども達が幼い頃から続けてきたスポーツを中学校・高校に進学しても継続ができるよう、その可能性を最大限に広げることができる持続可能な取組を、本市として今後も施していかなければならない。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎高知県教育委員会事務局（保健体育課）
委託先

◎土佐清水市教育委員会（生涯学習課）
再委託先

年間の事業スケジュール

令和6年5月 ・中学校における実施準備

6月 ・部活動地域連携・地域移行開始

8月 ・高知県 第4回地域移行検討部会

9月 ・地域連携・地域移行を検討する協議会の開催①

11月 ・地域連携・地域移行を検討する協議会の開催②

・国の実証事業 中間検査

令和7年1月 ・地域連携・地域移行を検討する協議会の開催③

・高知県 第5回地域移行検討部会

・部活動地域連携・地域移行終了

・成果報告書 提出

2月 ・高知県 部活動の地域連携・地域移行に係る報告会

・国の実証事業 決算報告

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1校	実施した地域クラブ総数	2 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		2 クラブ（2 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	2 人	全体の運営スタッフ数	4人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
清水中学校	NPO法人スポーツクラブスクラム	バドミントン	月 4 回／ 週 1 回（など）	16：30 ～ 18：30	1年生 1名 2年生 4名 3年生 2名	令和 6 年 6 月から 令和 7 年 1 月	市民体育館	1 人	3 人	月会費 500 円／月 (6,000円)	中体連：地域クラブ
FSS	NPO法人スポーツクラブスクラム	硬式テニス	月 4 回／ 週 1 回（など）	17：30 ～ 19：30	3年生 1名	令和 6 年 6 月から 令和 7 年 1 月	総合公園 テニス場 他	1人	1 人	月会費 0 円 年会費 10,000円 (など)	中体連：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 県補助金の子どものスポーツ環境整備事業を活用し、幼児から高校生を対象に硬式テニスや卓球の体験教室を実施した。

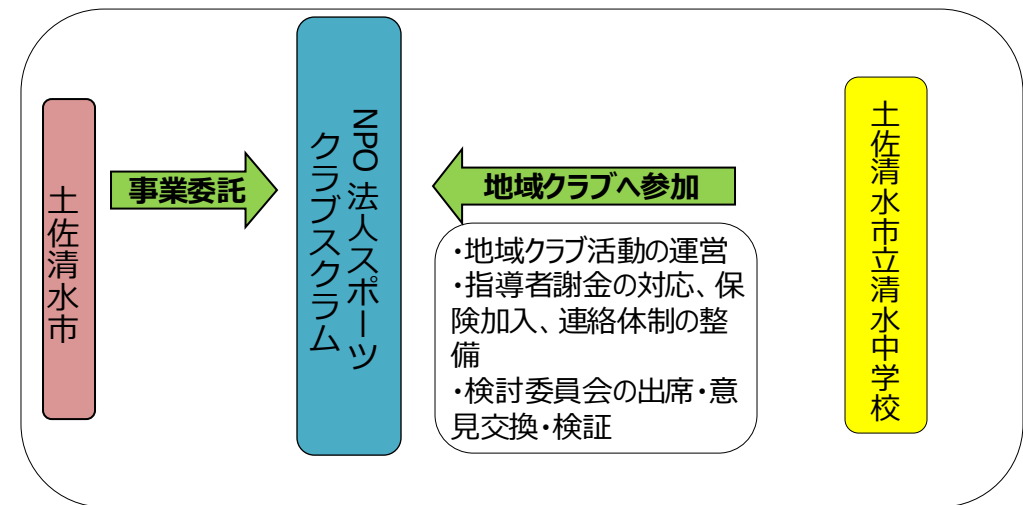
2.実証内容と成果

主な取組例

●活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バドミントン、硬式テニス
運営団体名	NPO法人スポーツクラブスクラム
期間と日数	バドミントン：6月1日～翌年1月31日 月4回程度 硬式テニス：6月1日～翌年1月31日 月4回程度
指導者の主な属性	クラブ指導者
活動場所	市民体育館・総合公園テニスコート他
主な移動手段	徒歩・自転車等
1人あたりの参加会費等（年額）	硬式テニス：10,000円 バドミントン：6,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

NPO法人スポーツクラブ スクラム

●事務局長 1名

役割：クラブ運営の統括を行う

●スクラム職員 2名

役割：地域で行われるスポーツイベントや、健康教室の企画・運営を行う

●コーディネーター 1名

役割：主に地域クラブ活動と教育委員会や役場との調整を行う

●クラブ指導者 2名

役割：地域クラブの生徒への指導

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・委員が集まりやすい時間帯と曜日を設定し、参加しやすい日程調整を行った。
- ・課題を対策に生かす協議を行った。
- ・地元高校との連携に向けた協議を実施した。

取組の成果

- ・活動指導員、中学校、スポーツ推進委員・スポーツ少年団代表者、市教育委員会、県教育委員会、NPO法人スポーツクラブスクラム等、部活動に係る関係者が集まり、現状課題を出し合いながら解決方向に向けて協議を行った。
- ・国制度の方向性やそれに対する予算状況について情報共有を行った。

コーディネーターの具体的な動きの実績

地域部活動コーディネーターを中心に、運動部活動の地域移行後の体制整備、地域連携・地域移行に向けての協議を実施した。検討・運営会議を年3回実施し現状と課題の共有を行った。

今後の課題と対応方針

課題としては、指導者の後継者不足の問題、予算上の問題、全国中学校体育大会における指導者資格の問題、部活動加入者の減少による部活動自体の存続の問題がある。

また、中学校で継続してきた部活動を高校でも継続ができるよう、今後においても高校と連携した活動を検討していく必要がある。

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

指導者研修の内容

部活動指導員が、県主催である令和6年度運動部活動指導員研修会のオンデマンド配信を受講した。

講演：「選手のやる気を引き出すメンタルトレーニング」

講師：大阪体育大学教授 土屋 裕睦

指導者研修の参加実績

- ・開催日： 令和6年10月27日
- ・開催回数： 1回
- ・参加人数： 4人

開催日には、大会等の日程が重なり現地での参加ができなかったため、後日オンライン受講で対応した。

受講者の声

受講者からの意見として、生徒への声掛け次第で意識向上につながる、ティーチングとコーチングの違いについて考えさせられたこと、指導者として日々学び続けることが大切だという意見があった。

また、生徒の内発的動機付けを大切にしたい指導とはどうあるべきかなどについても深く学んでみたいとの意見もあった。

今後の課題と対応方針

部活動指導員が指導の在り方について、日々課題に感じている事を解消できるような研修を、市としても、関係機関と協力をしながら実施に向けて取り組んでいきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

・地域部活動コーディネーターが中心となり、中体連の手続き等の対応を実施した。
・学校教育係と連携し、大会等の市のマイクロバス利用について円滑に進めた。

取組の成果

・地域部活動コーディネーターと連携し、地域移行・地域連携部活動の情報共有ができた。
・市外の大会は、市のマイクロバスを利用し生徒を送迎した。
保護者の負担軽減につながった。

バス等の運行実績

・日数 2日
・利用者数 20人
・運行経路
高知市

バス等の運航経費・収入

・人件費
運転手賃金 時給2,100円
(学校教育係 予算対応)

今後の課題と対応方針

運転手の雇用が必要となるため、人材確保が課題である。

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

近隣市町村との連携実施

幡多地区の6市町村が集まる「部活動に関わる意見交換会」(R5年度2回実施)にて、近隣市町村の取組状況について情報共有を図り、連携できる内容について協議した。

また、県の会議へ委員として参加し、他地域の取組状況を踏まえ、課題や成果を共有した。

取組の成果

本市の地域クラブに他市町村から参加している生徒もいることから、活動に係る費用負担などを含め、近隣市町村との連携を図った。

また、県教育委員会から検討会へ参加してもらうなど、県とも協力しながら取組を行った。

土佐清水市には1中学校しかなく、隣の中学校まで自動車でも1時間程度かかるため、今後は連携の在り方について検討が必要である。

今後の課題と対応方針

地理的な特徴から、他の市町村との連携には移動や費用等の課題があるため、今後も県や近隣市町村との連携を継続して図っていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

地域移行部活動の終了後、練習場所（社会体育施設）からのスクールバス送迎を実施した。

取組の成果

生徒の安全面を考慮し実施できたことで、保護者の安心感にも繋がった。

令和4年度実施アンケートより、保護者からの子どもの送迎について、「スクールバスを活用し、子どもの安全面を考慮してほしい。」との意見が複数あり、教育委員会内で協議した結果、帰りの送迎を令和5年4月より実施した。

活動の詳細

参加人数	3 人	指導者数	0 人
属性	中学生		
具体的な内容	学校から練習場所まで徒歩約15分の距離を、スクールバスを活用し部活動終了後に学校まで送迎している。		
関係者の声	指導者より、特に冬場などは道が暗く危険であるため、生徒の安全面を考慮し、送迎があるのは安心であるとの意見があった。		
運営経費	スクールバス経費（教育委員会の学校教育係予算）		



今後の課題と対応方針

学校から練習場所までの送迎についても今後の検討課題である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

自治体負担分として生徒と指導者の保険料を負担した。また、利用施設の減免を行った。



取組の成果

部活動において生徒と指導者の補償と安全を考慮し、スポーツ安全保険の加入料を自治体負担とした。

保険料 生徒9名、指導者8名

他市町村からの参加生徒についての保険料も対象とした。

今後の課題と対応方針

今後においても、生徒と指導者が安心安全な部活動ができるよう市としてバックアップしていく必要がある。

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

地域連携2部活動（卓球部、サッカー部）についても、地域移行に向けて引き続き取組を行う。

取組の成果

各部活動において、学校と地域の指導者が連携、協力できたため、地域連携（部活動指導員）として活動することができた。

今後は指導者の複数体制の構築や後継者の育成を目指す。

今後の課題と対応方針

令和6年度の地域連携部活動はソフトテニス部を含め3部活であったが、年度途中で指導者の退職のため2部活となった。今後においては、指導者の後継者問題をどう進めていくのが課題となっている。



指導者の属性や配置の工夫

部活動の指導者に、検討会の委員となってもらい、現状や地域移行に向けた課題について協議した。

各指導者とも、学校、総合型地域スポーツクラブ、市教育委員会と連携を図り活動を行った。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

本市では、令和4年度に2部活動を地域移行、令和5年度は地域移行が3部活動となり、また地域連携として2部活動を実施してきた。令和6年度は、地域移行が2部活動、地域連携は3部活動で活動している。事業を実施するにあたり関係機関での意見交換の場として開催している検討・運営会議では、指導者の後継者不足の問題、予算上の問題、地域クラブでの指導者資格の問題、部活動加入者の減少による部活動自体の存続の問題など、いくつかの課題点が挙げられている。

地域移行・地域連携の目的として、教員の働き方改革であるとともに、子ども達が幼い頃から続けてきたスポーツを中学校・高校に進学しても継続ができるよう、その可能性を最大限に広げることができる持続可能な取組を、本市として今後も実施していかなければならない。

そのためにも、県・市・教育機関・スポーツクラブ等の関係機関と協議し課題解決に向けて取り組んでいかなければならない。

●成果の評価

令和4年度より実施している検討・運営会議には、今年度より清水高校も委員として新たに加わり、課題点を共有しながら協議している。硬式テニスにおいては、今年度より、中学校を卒業した地域クラブの生徒を中心に硬式テニス部が発足し、インターハイに出場することを目標に、各大会において好成績を収めている。

高校生と練習を共にする中学生も先輩の姿を追いながら日々の練習に励んでおり、地元の中学校から高校に繋げる取り組みが部活動の地域移行を通して実施することができている。

●今後に向けて

令和7年度より高校が高台移転し中学校と隣接することから、部活動においてもより連携した取り組みが期待される。地元で継続したスポーツ活動ができるよう、今後においても関係機関で協議を重ね、検討していかなければならない。部活動加入者の減少という点では、幼い頃からスポーツに触れる機会の提供を今後も地域スポーツクラブと連携して取り組み、将来的な競技人口増加をめざすとともに、スポーツ強化の地域として、本市への転入者増加となるような人口減少対策にも結び付けていきたい。

2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者の声

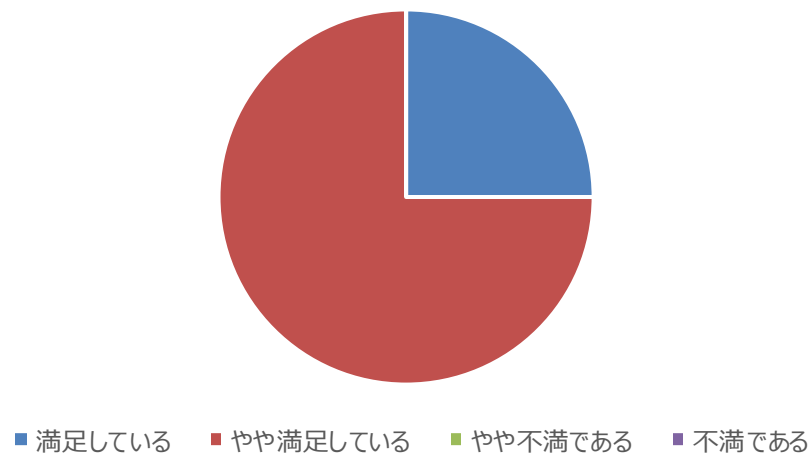
●アンケート結果

部活動地域移行に関するアンケート調査結果（概要）

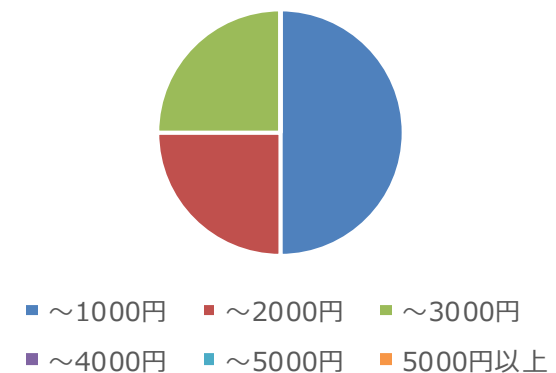
- [目 的] 部活動の地域移行の必要性、課題、対応の方向性を検討するにあたり、その基礎データとなる児童生と・保護者・教職員の意向を捉える。
- [調査期間] 令和6年12月27日～令和7年1月14日
- [対 象] ① 地域移行実証事業対象部活動保護者
② 地域移行実証事業対象部活動生徒
③ 地域移行実証事業対象部活動に関わった学校

保護者のアンケート結果

お子様が地域クラブに参加してどうでしたか



地域クラブにかかる月の費用はどのくらいですか



●保護者の声

Q 地域クラブ活動に参加した理由を教えてください

- 学校部活動より専門的な指導が受けられる
- 他の学校の友達と一緒にできる
- 小学校から継続して地域クラブで活動している

Q 地域クラブ活動に所属して良かったことを教えてください

- 専門的な指導を受けることができた
- 希望する種目を小学校から続けられた
- レベルにあった指導を受けられた

Q 地域クラブ活動に所属して悩んだことや困ったことを教えて

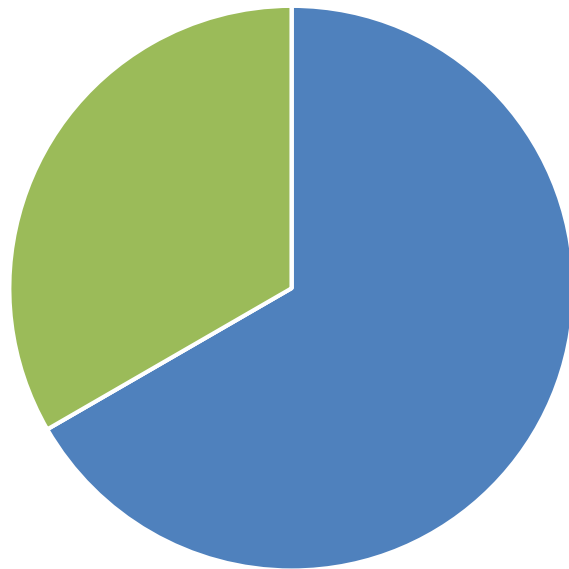
- 活動場所への移動
- 個人の金銭的負担が大きい
- 指導者との人間関係
- 他校の部員との人間関係

2.実証内容と成果③

アンケート結果・参加者の声

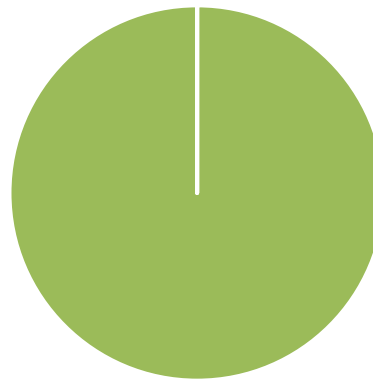
生徒のアンケート結果

地域クラブに参加してどうでしたか



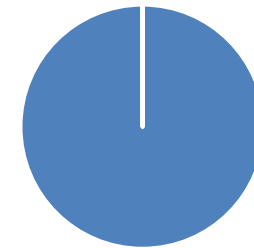
■ 満足している ■ やや満足している
■ やや不満である ■ 不満である

現在の地域クラブ活動での活動状況
(練習時間・練習日数) について教えてください



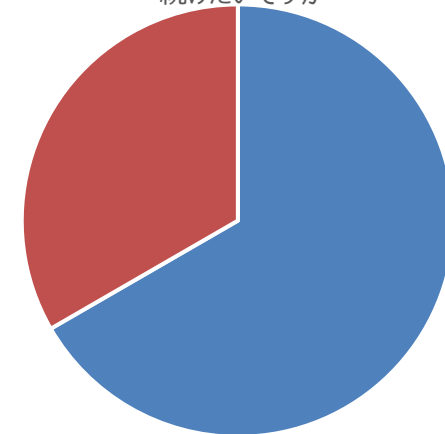
■ 多い ■ やや多い
■ 適度 ■ やや少ない
■ 少ない

中学校卒業後、現在活動している種目について教えてください



■ 続ける ■ 続けない ■ 分からない

「続ける」と回答した人はどの地域で現在の活動を
続けたいですか



■ 市（町）外の高校で続けたい
■ 地元の高校で続けたい

2.実証内容と成果④

アンケート結果・参加者の声

●生徒の声

- Q 地域クラブ活動に参加した理由を教えてください
- 学校部活動より専門的な指導が受けられる
 - 中学校に希望する種目がない
 - 小学校から継続して地域クラブで活動している

- Q 地域クラブ活動に所属して良かったことを教えてください
- 専門的な指導を受けることができた
 - 自分のレベルにあった指導を受けられた

- Q 地域クラブ活動に所属して悩んだことや困ったことを教えてください
- 活動場所への移動
 - 指導者との人間関係
 - 部員との人間関係

- Q 地域クラブ活動の練習場所へは、主にどうやって移動しているか教えてください
- 保護者の送り迎え
 - 自転車か徒歩

●学校の声

- Q 地域クラブ活動の取組を始めた理由を教えてください
- 教員の働き方改革のため
 - 生徒の活動機会を確保するため
 - 市教育委員会や地方自治体からの働きかけ

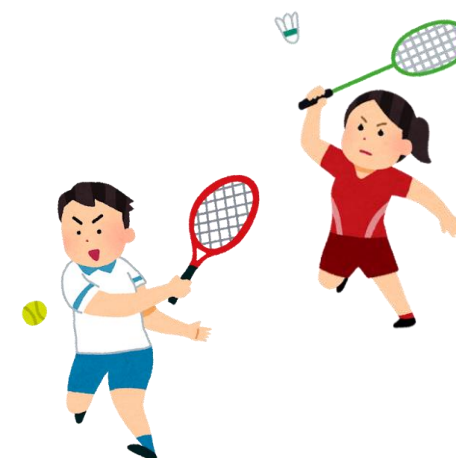
- Q 実際に地域クラブ活動を行った結果、教員の働き方改革につながっていますか
- やや働き方改革につながっている。理由は、部活動を行っている時間に教材研究や校務分掌等に取り組むことができるから

- Q 学校と地域クラブ（運営団体）で連携は図っていますか
- 図っている。定期的に検討・運営会議を開催し、情報共有を行っている

- Q 地域クラブ活動を行って、具体的に良かったことは何ですか、教えてください
- 教員の負担が減った
 - 生徒が意欲的に取り組むようになった

- Q 地域クラブ活動について、現在感じる課題は何ですか
- 生徒の活動や活躍が伝わりづらい

- Q 地域クラブ活動における、今後に向けての要望がありましたら教えてください
- 連絡系の先生の配置もなくしてほしい
 - 他の部活動も地域移行をしてほしい



2.実証内容と成果⑤

広報資料

スポーツクラブスクラムでは、子ども達がスポーツに興味を持つきっかけづくりとして、幼児から高校生を対象に各種目の体験教室を開催している。硬式テニス・バドミントンにおいても体験教室を開催するなど、将来的な部活動加入者の増加が期待される。

子ども達のスポーツ体験教室開催中！
硬式テニス・バドミントン・サッカー・水泳・剣道・柔道・空手・少林寺流など、様々なスポーツの体験教室を開催中！
体験教室は、子ども達がスポーツに興味を持つきっかけづくりとして、幼児から高校生を対象に開催している。

総合型地域スポーツクラブ
特定非営利活動法人
スポーツクラブ スクラム
会報 2024.10.1[105号]

スクラム会員状況 (令和6年4月末現在)
■ジュニア (中学生まで) 176名
■ハイスクール (高校生) 14名
■シニア (60歳以上) 147名
■総計 337名
■助 (企業・団体) 20団体

総合型地域スポーツクラブ
特定非営利活動法人
スポーツクラブ スクラム
会報 2024.7.1[104号]

令和6年度 スポーツクラブスクラム 加入クラブ一覧

No.	加入クラブ名	加入人数	加入時期	加入理由
1	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
2	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
3	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
4	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
5	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
6	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
7	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
8	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
9	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
10	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
11	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
12	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
13	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
14	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
15	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
16	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
17	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
18	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
19	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
20	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
21	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
22	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
23	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
24	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
25	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
26	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
27	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
28	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
29	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
30	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
31	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
32	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
33	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
34	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
35	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
36	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
37	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
38	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
39	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
40	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
41	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
42	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
43	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
44	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
45	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
46	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
47	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
48	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
49	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
50	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
51	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
52	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
53	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
54	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
55	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
56	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
57	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
58	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
59	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
60	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
61	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
62	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
63	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
64	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
65	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
66	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
67	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
68	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
69	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
70	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
71	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
72	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
73	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
74	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
75	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
76	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
77	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
78	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
79	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
80	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
81	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
82	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
83	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
84	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
85	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
86	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
87	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
88	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
89	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
90	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
91	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
92	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
93	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
94	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
95	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
96	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
97	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
98	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
99	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス
100	東京都立大付属中学校	10名	令和6年4月	硬式テニス

スクラム会員状況 (令和6年4月末現在)
■ジュニア (中学生まで) 176名
■ハイスクール (高校生) 14名
■シニア (60歳以上) 147名
■総計 337名
■助 (企業・団体) 20団体

スポーツクラブスクラムの広報誌



出典:NPO法人スクラムHPより

2.実証内容と成果⑥

参考資料（活動写真）



【硬式テニス】



【バドミントン①】



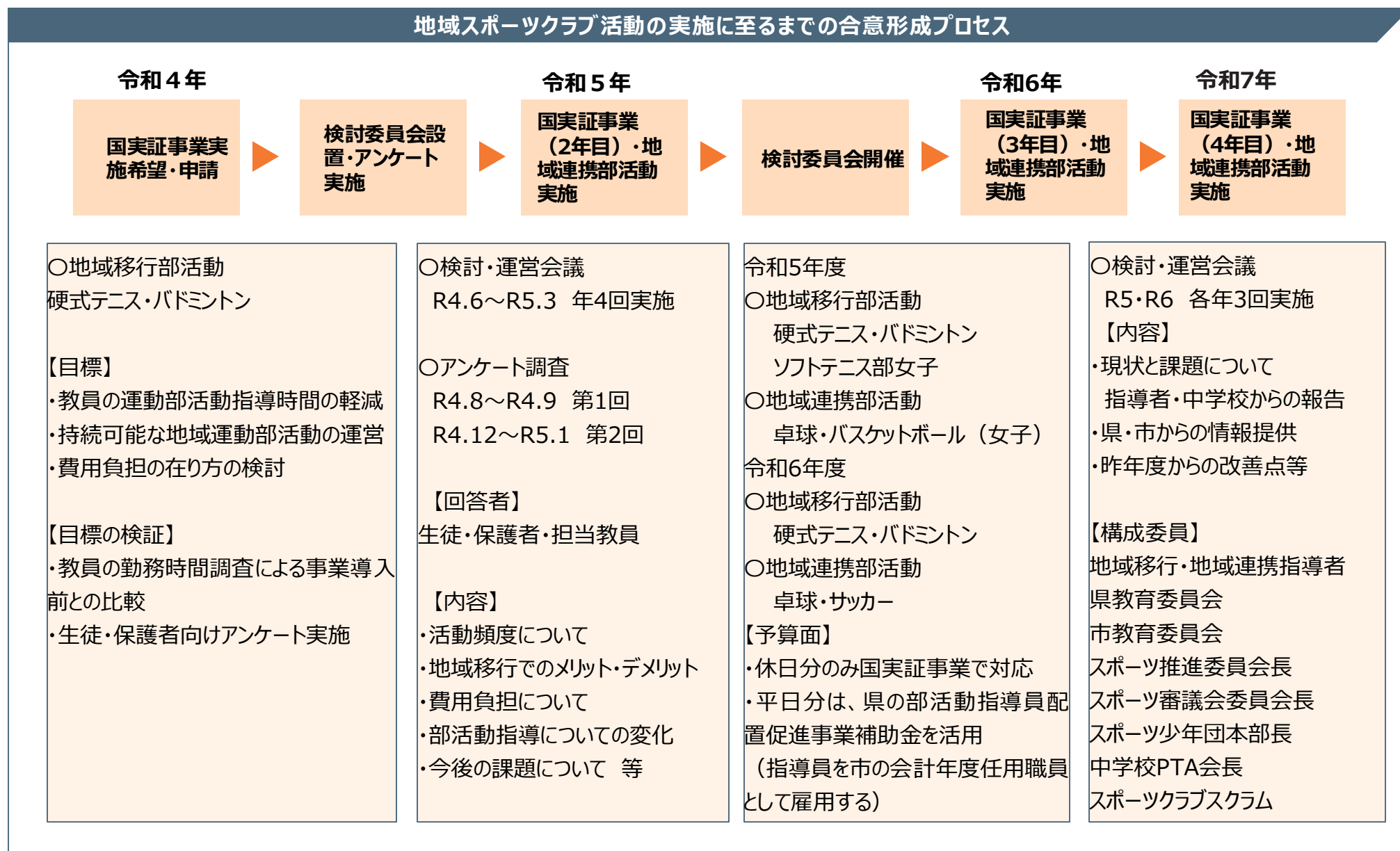
【バドミントン②】



【バドミントン③】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



3.今後の方向性①

土佐清水市立清水中学校における部活動改革の取組について

清水中学校

学校部活動

陸上部

野球部

合同チーム
(大月中)

バスケット
ボール部

合同チーム
(男子：東中)
(女子：県立中、宿毛)

バレーボール部

サッカー部

合同チーム
(片島中)

卓球部

ソフトテニス部

バドミントン部

テニス部

地域連携

第75回県中学校
野球選手権大会
(R6.820)
優勝

拠点校部活動
(男子：中村中へ参加)

部活動指導員

部活動指導員

部活動指導員

部活動指導員
(平日)

部活動指導員
(平日)

地域移行



地域クラブ活動
(休日)

地域クラブ活動
(休日)

高校との連携



清水高校との連携

3.今後の方向性②

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ					
	2022年度(R4)	2023年度(R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	R 8
NPO法人スポーツクラブスクラム	○地域移行部活動 (硬式テニス・バドミントン)	○地域移行部活動 (硬式テニス・バドミントン・ソフトテニス女子)	○地域移行部活動 (硬式テニス・バドミントン)	○地域移行部活動 (硬式テニス・バドミントン)	休日の運動部活動を完全に地域移行
スポーツハブ事業：子どものスポーツ環境整備推進事業等県補助金を活用した、子どもたちが幼いころからスポーツに触れ合える環境づくりを通して、将来の部活動の部員減少を防ぐことに繋げる					
モデル事業					
地域移行・地域連携部活動の推進					
土佐清水市教育委員会 (生涯学習課)	○検討・運営委員会の設置 ○生徒・保護者・教員へのアンケート調査実施	○地域連携部活動 (卓球・バスケ女子)	○地域連携部活動 (卓球・サッカー・ソフトテニス) ○その他の部活動の地域連携・地域移行についても協議していく	○地域連携部活動 (卓球・サッカー) ○その他の部活動の地域連携・地域移行についても協議していく	
モデル事業終了後の地域移行継続に向けての予算化、県補助金等を活用した地域連携部活動の予算化、指導員不足に対する対策等を通して、子ども達の持続可能なスポーツの継続をめざす					
高知県立清水高等学校		○高校の校舎移転に合わせて清水中と定期的な意見交流	○検討・連携部会へ参加 ○硬式テニス部創設 (中学校地域クラブと連携、合同練習)	○R7.4月校舎移転予定（中学校と隣接） ○中高連携の部活動を協議していく ○硬式テニス部（中学生と連携）	

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

高知県四万十市

自治体名：高知県四万十市

担当課名：四万十市教育委員会生涯学習課

電話番号：0880-34-0750

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	632.29 km ²
人口	31,465 人
公立中学校数	3 校
公立中学校生徒数	672 人
部活動数	23 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	設置済

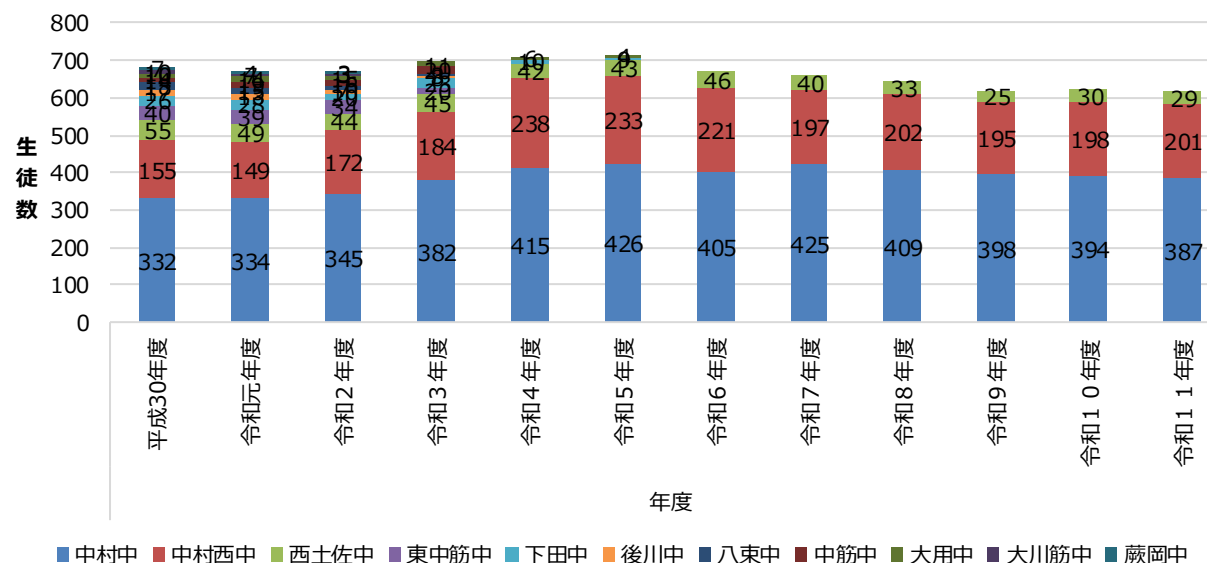
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本市では、令和5年度に検討委員会を年2回実施し、地域連携・地域移行の効果と課題を共有するとともに国・県の取組み動向についても共有した。検討委員会には、中学校長・PTA会長・スポーツ協会・スポーツ少年団協議会、文化協会の代表者を委員として任命、委嘱し、今後の部活動地域移行等の進め方について協議した。また、本市の地域連携・地域移行推進計画を決定。併せて、令和6年度にスタートする1部活動（ソフトテニス競技）の地域移行実証事業を展開する内容についても確認した。

課題としては、生徒数、教員数の減少により、専門として指導できる教員がいない、生徒がやりたい部活動が学校に無い、団体競技においては自校単独でチームが組めない等の現状となっている。

そこで「地域の子供たちは、学校を含め地域で育てる。」という意識の下、本市の実情に応じ、子供たちが地域でスポーツや文化活動に継続して親しむことができる機会を確保するとともに、学校の働き方改革を推進し、持続可能で多様なスポーツ・文化環境の一体的な環境整備を図っていく必要がある。

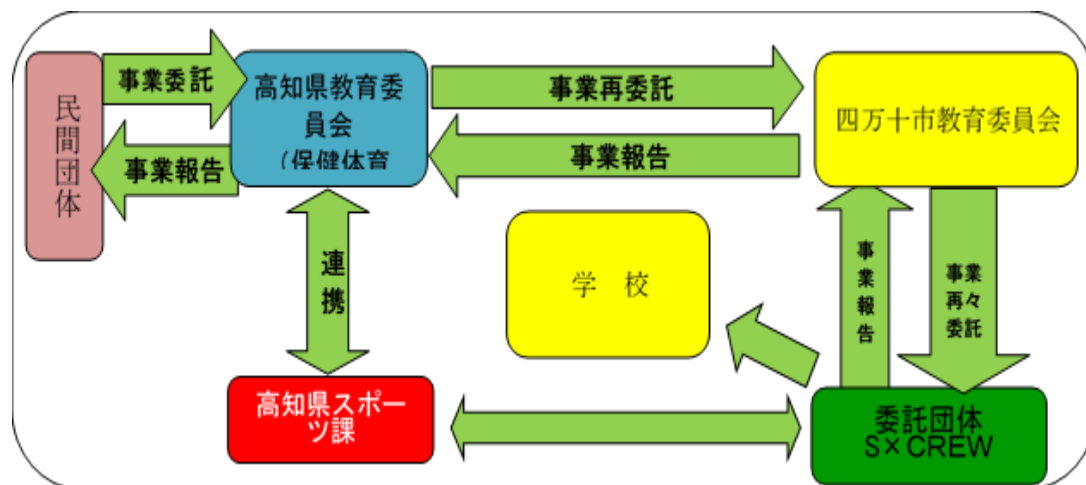
四万十市立市立中学校の生徒数推移



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・学校教育課、生涯学習課
- ・S(エス)×CREW(クルー)（委託団体）への事業委託、学校との連絡調整

◎首長部局

- ・なし

年間の事業スケジュール

令和6年4月	・委託団体・中学校における実施準備
令和6年6月～1月	・国の実証事業 S×CREW ソフトテニス部
令和6年7月	・四万十市 地域連携・地域移行検討委員会①
令和6年8月	・第4回 高知県地域移行検討部会
令和6年11月	・国の実証事業 中間検査
令和7年1月	・四万十市 地域連携・地域移行検討委員会② ・国の実証事業成果報告書提出 ・第5回 高知県地域移行検討部会
令和7年2月	・国の実証事業 決算報告 ・部活動の地域連携・地域移行に係る報告会

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	6校（市外からの参加校含む）	実施した地域クラブ総数	1クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1クラブ（1部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		
全体の指導者数	4人	全体の運営スタッフ数	4人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体 種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
S×CREW	地域クラブ	ソフトテニス (新)	週 3 回	19～21時 (水) 13～17時 (土日)	3年13名 2年 9名 1年 8名	R6.4～	安並運動公園テニスコート	4人	4人	月会費 2,000 円 (内 保護者会 費500円)	中体連：部活動 その他：地域 クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 体験会等：練習時に随時

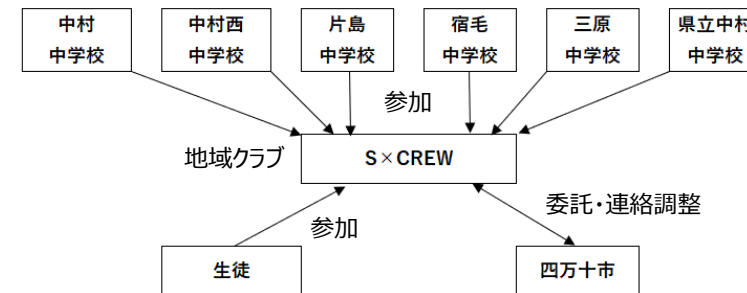
2.実証内容と成果

主な取組例

●S×CREW 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	ソフトテニス
運営団体名	S×CREW
期間と日数	R6年4月1日～R7年3月31日 ※月3回程度
指導者の主な属性	クラブ指導者（40代男性3名と女性1名、自営業及び民間企業、公務員）
活動場所	安並運動公園テニスコート
主な移動手段	自家用車等
1人あたりの参加会費等（年額）	24,000円（内 保護者会費500円）
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

① 統括責任者

役割：男女全体の指導及び運営に関する確認及び最終決定を行う

② 主任指導者 2名

役割：男女各1名ずつ監督として指導及び大会引率等を行う

③ 運営補助者 1名

役割：部費及び保護者会費の管理、補助金に関する書類全般、予定計画、施設借用申請、大会申請、中体連関係書類全般、保護者や指導者への連絡、保護者及び生徒からの相談窓口を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備 / ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- ①令和5年度、検討委員会の開催
(年2回)
※四万十市部活動地域連携・地域移行推進計画の策定
- ②四万十市生涯学習課と委託団体
S×CREWの協議
(令和5年度7回、6年度5回)
- ③県教育委員会保健体育課との協議
(令和5年度5回、6年度10回)
- ④四万十市
地域連携・地域移行検討委員会
(令和6年度2回)
- ・委託団体 S×CREWの体制
 - ① 統括責任者 1名
 - ② 主任指導者 2名
 - ③ 運営補助者 1名

取組の成果

地域的にソフトテニスが盛んに行われている地域ではあったが、近年の少子化の影響を本市も受けており、学校単位では部活動として成り立たない中学校も出てきていた。

そこで、もともと部活動の外部指導員であった指導者がクラブチームS×CREWを結成。自治体から地域移行クラブ委託団体として、事業を受託する形で地域移行クラブとして立ち上げることができた。

生徒は30人前後で、専門の指導者の指導、またレベルの高いメンバーで活動することができていることにより、大会でも好成績を残すことができた。

今後の課題と対応方針

学校に部活動を残して、平日学校、休日地域クラブというスタイルスタートしたが、学校部活動のみを行う生徒や顧問との人間関係がスムーズにいかないこともあり、生徒が不安を抱く面が見られた。また中学校によって、地域クラブの考え方や向き合い方に差を感じることがあった。

十分に中学校と連携を取りながら協議を行い、会議を開催するとともに、中学校に出向き、保護者会等での周知を図ったが、それでもなお学校や保護者、地域への周知を徹底する必要を感じた。

来年度も引き続き、他の競技についても地域移行に向けた指導者の確保、収入面の改善等の問題を一つ一つ解決しながら、地域連携・移行への取り組みを進めていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

指導者研修の参加実績

令和6年度日本スポーツ協会公認ソフトテニスコーチ1養成講習会

目的：地域スポーツクラブ・スポーツ少年団・学校運動部活動等での
コーチングスタッフとして、基礎的な知識・技能に基づき、安全で
効果的な活動を提供する者を養成する。

開催日：12月1日(日)、8日(日)、21日(土)、22日(日)

参加人数：約20名（SCREWから4名参加）

場所：高知市東部運動場テニスコート（1, 8日）
高知市東部運動場くろしおアリーナ会議室（21, 22日）

参加者の属性：地域スポーツクラブ・スポーツ少年団・学校運動部活動等
のコーチングスタッフ等

費用：33,440円（共通科目Ⅰ：18,040円
専門科目：15,400円）

資格有効期間：4年間

指導者研修の内容

カリキュラム（1）共通科目Ⅰ：45時間（自宅学習）
JSPOが実施するオンライン形式の講習

（2）専門科目：20時間以上（集合講習及び自宅学習）
※基礎理論11時間・実技9時間・指導実習2時間
合計22時間
※筆記試験・実技試験をおこなう

取組の成果

- ・生徒に最新の指導法を多角的に伝えるための指導方法を学べた。
- ・技能だけでなく、安全面に配慮した指導方法が学べた。
- ・全国中学校体育大会参加に伴う地域クラブ指導者の参加水準である「公認コーチ1」の資格が取得できた。

今後の課題と対応方針

- ・資格取得までの指導者の拘束時間が長い。（オンラインを含めると10日間程度）
- ・講習会受講となると4日間受講となり、四万十市から高知市までの時間的、肉体的負担が大きい。
- ・講習会受講のための費用負担が生じる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

- これまで外部指導員、ボランティアで指導をしていた指導者に一定額の謝金を渡したい。
- 県総体への参加については、市バスの送迎を実施する。
- 受益者負担（部費）については教育的観点から値上げをしない。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

初期費用として330万円は必要。
 参加者から月謝として、学校部活動の時と同様の金額を維持した。
 指導者への謝金は出しておらず、ボランティアでの指導となっている。大会参加費や練習会場費等についても、ほとんどが自己負担で行っており、特にイニシャルコストの設定はなかった。

■ランニングコストの分析

大まかに計算すると下の＜令和6年度の支出＞に記載したような金額が年間で必要となる。
 そのため、指導者への謝金は払っていない。その他交通費や宿泊費を実費負担をしてもらうことにより、何とか運営できている状態である。
 持続的な運営は難しいが、受益者負担は増やしたくないという委託団体の思いがある。

収支バランス

＜令和6年度の収入＞

- 受益者負担 1,500円（月額）×12ヶ月×30人＝540,000円
- スポーツ安全保険 800円×30人＝24,000円
- 連盟登録料 500円×30人＝15,000円
- 夜間照明代 200円×30人×5回×12ヶ月＝360,000円
- 国の実証事業 210,000円
- 寄付金等 440,000円
- ◎ 収入合計 1,589,000円

＜令和6年度の支出＞

- 指導者4名の謝金
 土日2日間×3時間×4人×45週×1,600円＝1,728,000円
- 指導者遠征交通費 年間 300,000円
- 指導者宿泊費 年間 300,000円
- 施設使用料 月約30,000円×12ヶ月＝360,000円
- 選手遠征交通費 200,000円
- 選手大会参加費 200,000円
- その他消耗品費 200,000円
- ◎ 支出合計 3,288,000円（赤字1,699,000円）

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

本市では、令和5年度に検討委員会を年2回実施し、地域連携・地域移行の効果と課題を共有するとともに国・県の取組み動向についても共有した。検討委員会には、中学校長・PTA会長・スポーツ協会・スポーツ少年団協議会、文化協会の代表者を委員として任命、委嘱し、今後の部活動・地域移行等の進め方について協議した。また、本市の地域連携・地域移行推進計画を決定。併せて、令和6年度にスタートする1部活動（ソフトテニス競技）の地域移行実証事業を展開する内容についても確認した。

課題としては、生徒数、教員数の減少により、専門として指導できる教員がいない、生徒がやりたい部活動が学校に無い、団体競技においては自校単独でチームが組めない等の現状となっている。

そこで「地域の子供たちは、学校を含め地域で育てる。」という意識の下、本市の実情に応じ、子供たちが地域でスポーツや文化活動に継続して親しむことができる機会を確保するとともに、学校の働き方改革を推進し、持続可能で多様なスポーツ・文化環境の一体的な環境整備を県・市・スポーツ関係団体と連携し、取り組んでいく必要がある。

●成果の評価

地域的にソフトテニスが盛んに行われている地域ではあったが、近年の少子化の影響を本市も受けており、学校単位では部活動として成り立たない中学校も出てきていた。

そこで、もともと部活動の外部指導員であった指導者がクラブチームS×CREWを結成。自治体から地域移行クラブ委託団体として、事業を受託する形で地域移行クラブとして立ち上げることができた。

生徒は30人前後で、専門の指導者の指導、またレベルの高いメンバーで活動することができていることにより、大会でも好成績を残すことができた。

●今後に向けて

学校に部活動を残して、平日学校、休日地域クラブというスタイルでスタートしたが、学校部活動のみを行う生徒や顧問との間で人間関係がスムーズにいかないこともあり、生徒が不安を抱く面が見られた。また中学校によって、地域クラブの考え方や向き合い方に差を感じることがあった。

十分に中学校と連携を取りながら協議を行い、会議を開催するとともに、中学校に出向き、保護者会等での周知を図ったが、それでもなお学校や保護者、地域への周知を徹底する必要を感じた。

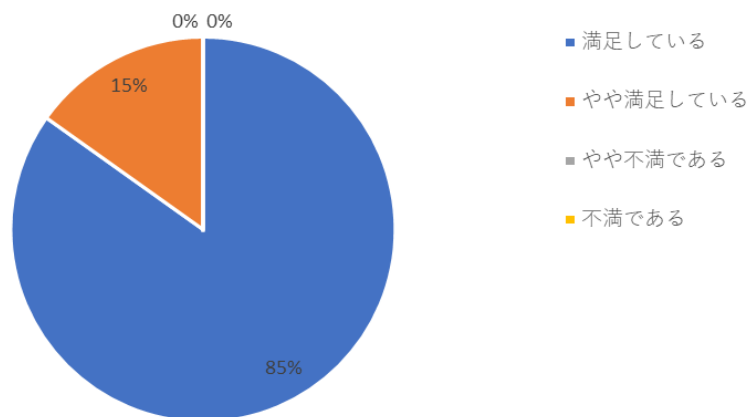
来年度も引き続き、他の競技についても地域移行に向けた指導者の確保、収入面の改善等の問題を一つひとつ解決しながら、地域でスポーツが続けられる環境づくりとともに、スポーツ振興の観点からも地域連携・移行への取り組みを加速させていきたい。

2.実証内容と成果②

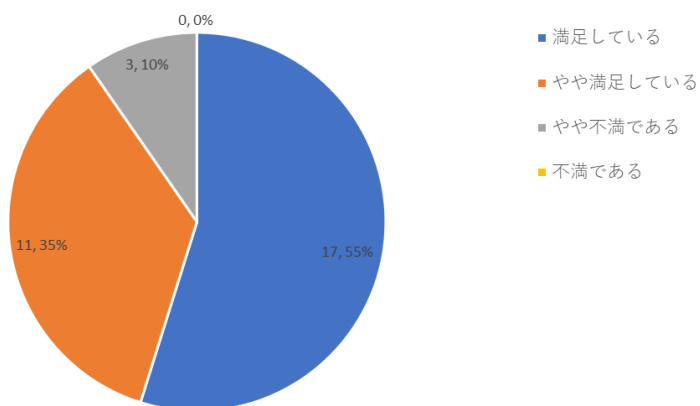
アンケート結果・参加者の声

● アンケート結果

Q.地域クラブに参加してどうでしたか？（生徒）



Qお子様が地域クラブに参加してどうでしたか？（保護者）



● 参加者の声

中学生（参加者）

①地域クラブ活動に参加した理由

- ・学校部活動より専門的な指導が受けられる
- ・他の学校の友達と一緒にできる

中学生（参加者）

②地域クラブ活動に所属して良かったこと

- ・専門的な指導を受けることができた
- ・他校の生徒と友達になれた

参加生徒の保護者

①お子様が地域クラブ活動に参加した理由

- ・学校部活動より専門的な指導が受けられる
- ・ほかの学校の友達と一緒にできる

参加生徒の保護者

②お子様が地域クラブに所属して良かったこと

- ・専門的な指導を受けることができた
- ・他校の生徒と友達になれた
- ・レベルにあった指導を受けられた

2.実証内容と成果③

広報資料

【地域スポーツクラブ（設立時）】



SxCREWは、中学校部活動を地域移行に向け、実証事業として四万十市からの依頼を受け設立した地域クラブです。経験者、未経験者関係なく「テニスを楽しみたい！」「とにかく部活を頑張りたい！」と思う生徒を応援します。指導者だけが指導に当たるのではなく、生徒同士での学び合い、仲間の成長を喜び、またそれを超えたいと思う向上心が持てる環境を目指し、チームとしての底上げを図ります。チーム名にある CREW の意味通り、全員が同じ船に乗った“仲間”です。
今しかできないことを一生懸命に！ここでしか見られない景色と一緒に！
一つの目標に向かって、全員で行動します！
2 月中は練習を体験いただけますので、右記 QR コードより申し込みください。



主な練習場所； 安並テニスコート

主な練習時間； 水曜 19:00～21:00

土・日・祝 13:00～17:00(※季節や天候により変更有)

平日は在籍する学校で練習。但し、休曜日を 2 日設ける。

活 動 内 容； 練習試合や中体連主催に限らず大会など積極的に参加。
県外遠征あり。

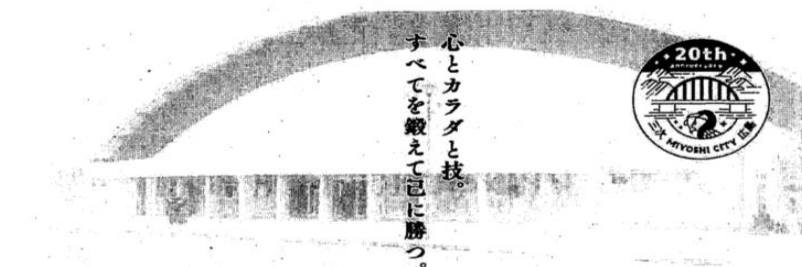
集 金； 1 ヶ月 2,000 円(部費 1,500 円・保護者会費 500 円)

※別途年度初めスポーツ保険加入費 800 円と連盟登録料 500 円あり

新2・3年生については、本クラブに入部するにあたり移籍手続きを取るため、4月の春季大会に出場するには2月中の申込が必要になります。来年度の更新を一度現学校で行うと、本クラブへ入部を希望した場合、ペナルティが発生し3ヵ月間大会への出場ができなくなりますのでご注意ください。
クラブチームや移籍等に関するお問合せは、s.crew40010@gmail.com までお願いします。

【生徒への参加啓発チラシ】

出典:地域スポーツクラブ「SxCREW」



1st ALL JAPAN JUNIOR. HIGH SCHOOL LIFE BOOST CUP

2024

8/ 10(土) ~ 12(日)

会 場：広島県三次市 みよし運動公園テニスコート、ドーム

主 催：UP SHELL

共 催：LIFE BOOST

後 援：三次市、株式会社ベースボール・マガジン社

力：あゆタロウ、特定非営利活動法人BIG CONC

協 賛：ヨネックス株式会社、株式会社ルーセント、株式会社FAS、
広島県酪農業協同組合、一般社団法人WELL TRADE PROJECT W.A.K.A
株式会社CREVAS GROUP、YKK AP株式会社広島工場、
株式会社山路フードシステム、株式会社MARK、アルファー株式会社、
ユアマイスター株式会社、鳥小屋、Jack Hand1007's、
ミヨシ電子株式会社、PREGO、丸善製菓株式会社
中国コイケ株式会社、サフヨー工業株式会社、葱坊主 順不同



【2024年8月に行われた全国大会のパンフレット】

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【親子テニス教室】



【県総体（団体戦）】



【部員集合写真】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年

協議会設置、検討開始

受け皿団体や指導者の選定

学校現場との調整

生徒、保護者への説明

令和6年

地域クラブ活動の開始

○地域移行部活動 ソフトテニス

【目標】

- ・持続可能で多様なスポーツ・文化環境の一体的な環境整備
- ・教員の部活動に係る負担軽減
- ・指導者の人材、収入確保と費用負担の在り方の検討

【目標の検証】

- ・生徒、保護者、運営団体、学校向けのアンケート実施
- ・教員の勤務時間調査による事業導入前後の比較

○検討会議

R5.11.13

R6.3.1 年2回実施

【内容】

- 会議の設置・要綱の制定
- 地域連携・移行の現状等（国・県・市）について（共有）
- 市内中学校の現状分析
- 地域連携・地域移行推進計画の策定
- 次年度事業等について

令和6年度

- 地域移行部活動
ソフトテニス部（男子・女子）

- 地域連携部活動
バレーボール（男子）

【予算面】

- ・休日分のみ国実証事業で対応
- ・他の費用は自主財源を活用

○検討会議

R6.7.30

R7.1.31 年2回実施

【内容】

- 国・県の動向について
- 本市の現状（生徒数・部活動の推移）
- 競技別方向性の検討（拠点校部活動）
- 地域移行への動きについて

【構成委員】

- ・中学校長（体育主任等）
- ・中学校PTA会長
- ・スポーツ、文化団体代表者等

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

■四万十市部活動地域連携・地域移行推進計画（R6.3月）

「改革推進期間」における取組の方向性及び概要

令和8年度以降の国のガイドラインの見直しに向けて、本市では以下のスケジュールで方向性の決定を行う。

令和5年度	① 検討委員会の設置、開催（2回） ② 実証事業に向けた競技団体等との調整 ③ 体制整備に向けた財源の確保 など
令和6年度	① 検討委員会の開催（年2回開催予定） ・実証事業の現状と検証 ・競技別可能性の調査結果の報告と今後の方向性について ・事業計画：アクションプランの作成・見直し ・競技別地域連携・移行の推進における協議 ② 実証事業による地域連携・地域移行に係る課題の洗い出し ③ 地域連携・地域移行統括コーディネーターの導入検討
令和7年度	① 検討委員会の開催（年2回開催予定） ・実証事業の現状と検証結果報告 ・競技別地域連携・移行の促進結果報告 ・令和8年度以降の方向性決定に向けた協議 ・令和8年度以降の事業計画：アクションプランの作成 ② 実証事業による課題等の集約 ③ 令和8年度以降の方向性の決定、推進計画の作成

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

高知県 越知町

自治体名：高知県越知町

担当課名：教育委員会 生涯学習課

電話番号：0889-26-3511

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	111.95 km ²
人口	4,811 人
公立中学校数	1 校
公立中学校生徒数	82 人
部活動数	7 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

越知町は、高知県中西部に位置する自然豊かな町で、植物学者の牧野富太郎氏が研究のためによく訪れていた横倉山県立自然公園が広がっている。越知中学校は、越知町に唯一の中学校である。

町の人口は約4,800人で、越知中学校は、越知町唯一の中学校である。小学校も越知小学校の1校のみであり、高知県の多くの地域同様に過疎化の進んでいる町である。

野球の独立リーグである四国アイランドリーグの高知ファイティングドッグスが練習場として使用し、公式戦でも使用されている越知町民総合運動場を始め、スポーツに親しむ環境は比較的整っており、小学校から地域のスポーツとして、サッカー、野球、バレーボール、バドミントン、空手、柔道などが活動している。

中学校でも全校生徒82人に対して、部活動数が多く、運動部のみで、男女バスケットボール部、サッカー部、軟式野球部、女子バレーボール部、卓球部、柔道部、さらに文化部もあり、学校の規模か

ら考えると部活動数が多く、教員への負担が大きい。

また、生徒が分散してしまい、一つ一つの部活動の部員不足が顕著であり、野球などの団体競技について近隣町村と合同チームによる活動を行っている。

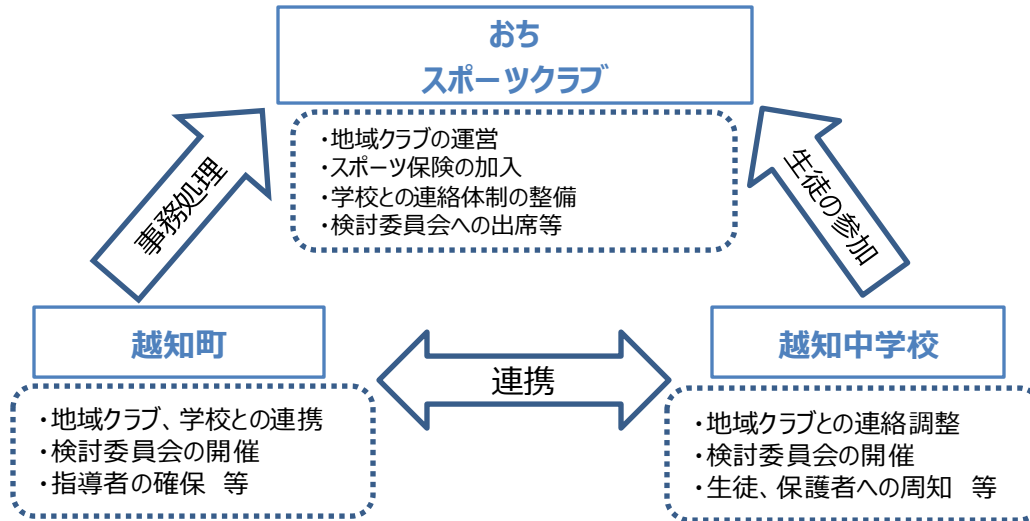
【課題】

- ①指導者の担い手不足
- ②学校部活動と地域クラブとの合同チームが県中体連主催大会で認められていないため、もし越知町で地域クラブを活用して地域移行した場合、合同チームを組んでいる近隣町村との調整が必要。男子バスケットボール部はもともと中学校に部活動としてなく、地域の声か生まれた地域クラブである。しかし、上記の不安があるため、大会には学校部活動として参加している。
- ③拠点校活動にした場合、越知町は立地上近隣の町村と距離が離れており、部活動練習をする場合に移動手段がない。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・部活動外部コーチの配置
- ・越知中学校部活動検討委員会開設

◎首長部局

- ・特になし

年間の事業スケジュール

令和6年4月	越知中学校部活動検討委員会開設
令和6年5月	第1回検討委員会の開催
令和6年6月～1月	国の実証事業 男子バスケットボール部
令和6年8月	第4回 高知県地域移行検討部会
令和6年11月	国の実証事業 中間検査
令和7年1月	国の実証事業成果報告書提出 第5回 高知県地域移行検討部会
令和7年2月	第2回検討委員会 国の実証事業 決算報告 部活動の地域連携・地域移行に係る報告会

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1 校	実施した地域クラブ総数	1 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1 クラブ（男子バスケットボール部）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	1 人	全体の運営スタッフ数	1 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
おちスポーツクラブ	総合型地域スポーツクラブ	男子バスケットボール	月 12 回程度	17：30 ～ 19：30	中3：1名 中2：6名 中1：2名	R3～	越知町民総合運動場	1 人	1 人 （内、兼務0 人）	年会費 2,500 円	中体連：部活動 その他：地域クラブ



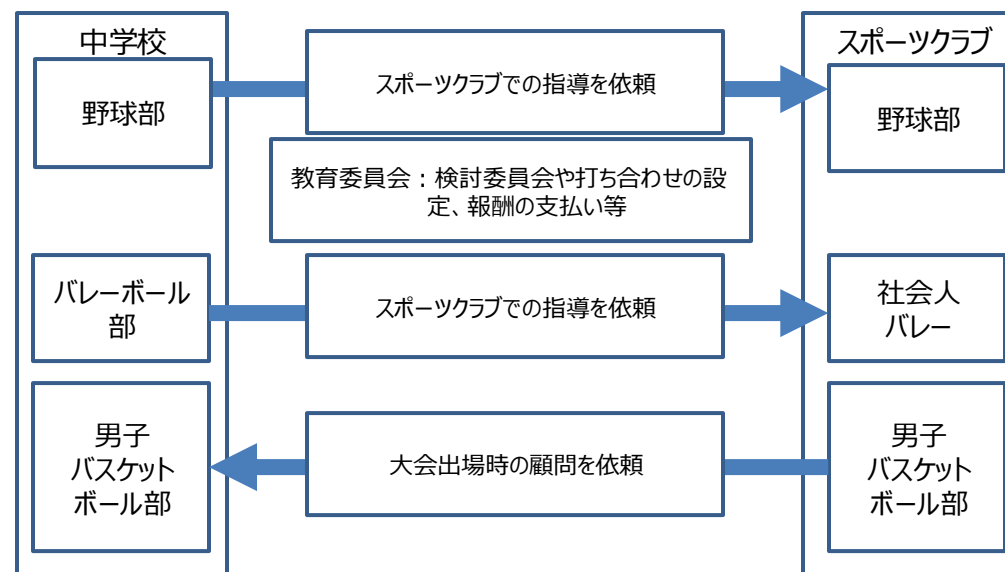
2.実証内容と成果

主な取組例

●おちスポーツクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	男子バスケットボール
運営団体名	おちスポーツクラブ
期間と日数	男子バスケットボール 月12回程度
指導者の主な属性	地域住民（バスケットボール未経験者）
活動場所	越知町民総合運動場体育館
主な移動手段	自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	男子バスケットボール部：24,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●指導者 1名

役割：男子バスケットボール部の指導を行う

※ 野球部で1名、バレーボール部に1名指導を依頼する予定であったが、部員不足や時間的都合のために指導できていない。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

指導方法や練習日などの実務的なことは、顧問とスポーツクラブの指導者で直接連絡してもらう。

取組の成果

学校やスポーツクラブ会長だけではなく、学校運営協議会やスポーツ推進委員会といった地域の様々な団体から部活動検討委員を委嘱しているため、一方だけではなく多方面からの意見を入手できた。

今後の課題と対応方針

指導者の人材確保が課題としてあがっている。持続可能な運営体制の整備が必要。

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

平日と休日の指導者間の連携方策を構築する。

取組の成果

野球部では部員不足のため、地域クラブとしての活動が難しくなったことから、指導者と顧問間での連携の取り組みができなかった。

バレーボール部においても、指導予定であった方が、休日の指導が難しくなったことから事業としては取り組めていないが、平日での活動では顧問との連携を図っている。

今後の課題と対応方針

指導者がいても活動する生徒がいなかったり、生徒がいても、部活動の時間帯に指導者の都合が合わなかったりしたため、予定していた活動ができなかった。

移動手段の問題はあるが、近隣の自治体と連携を取り人材不足の解消を図っていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

部活動検討委員会へ、越知中学校長、越知中学校PTA会長、越知町学校運営協議会委員、おちスポーツクラブ会長、越知町スポーツ推進委員長などを委員として委嘱し、地域全体で検討する。

中学生がスポーツクラブのスポーツ大会等のイベントに参加できるよう連携する。

取組の成果

検討委員会では地域移行に進めなかった部活もあったが、スポーツクラブ会長やスポーツ推進委員長、PTA会長など多方面から、人材確保や、地域移行する上での課題などに対しての意見をいただき、また情報共有もできた。

今後は、地域クラブ指導者との連携を深めていくため、検討委員会への参加を図っていきたい。

今後の課題と対応方針

今後も多くの関係機関の方に委員を委嘱し、意見や情報交換を行い、部活動の地域移行へつなげたい。

イベント参加についても、今後も積極的な参加を促したい。



2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

越知町でも、関係機関との意見交換の場として部活動検討委員会を開催し協議をしているが、現状の越知町では、指導者の担い手不足や合同チームを組んでいる部活動が地域移行すると、大会に出られない、拠点校活動にした場合、近隣町村と距離が離れており生徒の移動手段がない等の課題があげられる。

地域移行を進めていくためには、本町のみではなく、県、近隣町村等の関係機関と協議し課題解決に向けて取り組んでいかなければならない。



●成果の評価

部活動検討委員会へ、越知中学校長、越知中学校PTA会長、越知町学校運営協議会委員、おちスポーツクラブ会長、越知町スポーツ推進委員長などを委員として委嘱し、地域全体で検討。

検討委員会では地域移行に進めなかった部活もあったが、スポーツクラブ会長やスポーツ推進委員長、PTA会長など多方面から、人材確保や、地域移行する上での課題などに対しての意見をいただき、また情報共有もできた。

●今後に向けて

地元で継続したスポーツ活動ができるよう、今後も関係機関と協議を重ね検討していかなければならない。

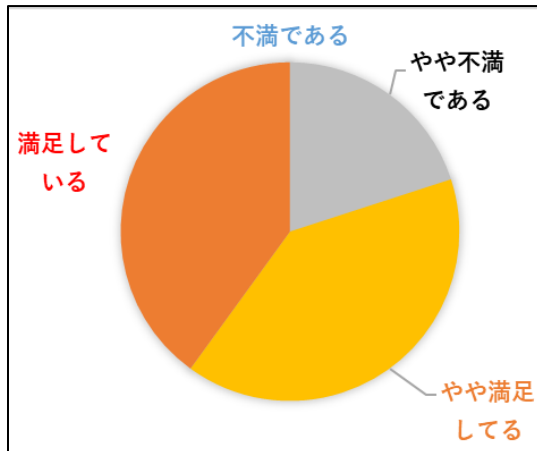
左記に書いたような課題がある中で、本町だけではなく、県や近隣市町村などと協議をし課題解決方法を検討しないといけない。

2.実証内容と成果②

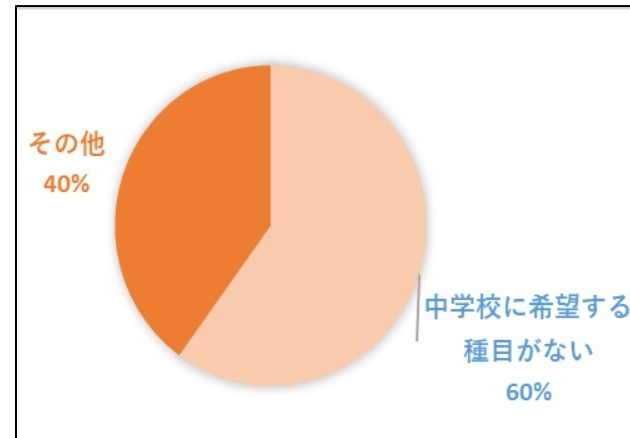
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果（全9人中 5人回答）

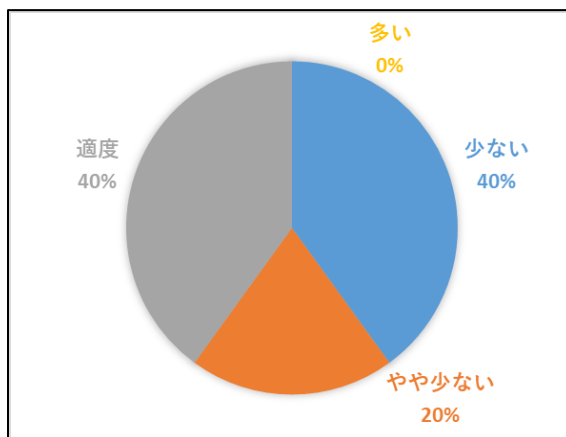
Q.地域クラブに参加してどうでしたか。



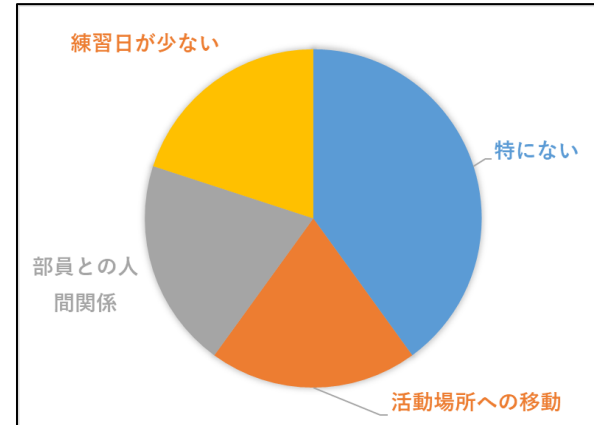
Q.地域クラブ活動に参加した理由を教えてください。



Q.現在の地域クラブ活動での活動状況（練習時間・練習日数）について教えてください。



Q.地域クラブ活動に所属して悩んだことや困ったことを教えてください。

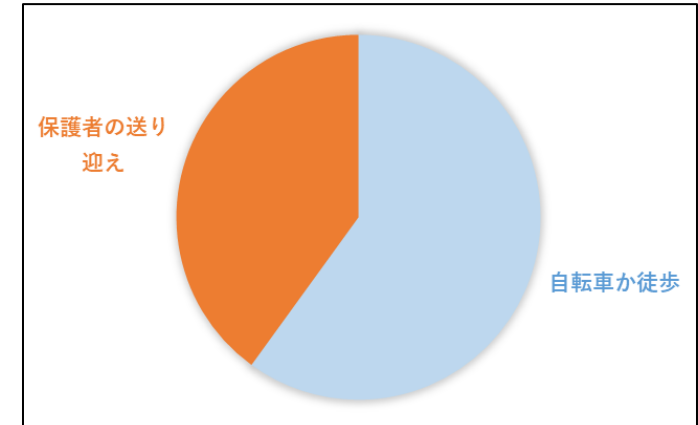


●参加者の声

中学2年生
自分のレベルにあった指導を受けられた。
大人数で活動することができた。

中学1年生
自分の好きな競技に取り組めることができてよかった。

Q.地域クラブ活動の練習場所へは、主にどうやって移動しているか教えてください。



2.実証内容と成果③

アンケート結果・広報資料

おちスポーツクラブ ホームページ



越知町
OCHI TOWN

文字の大きさ 標準 拡大 背景色 標準 黒 青 黄 Google 提供 検索



移住情報 観光情報

[お問い合わせ](#) | [サイトマップ](#)

[越知町ホーム](#) > [各課からのお知らせ](#) > [生涯学習課\(社会教育\)](#) > クラブの概要

くらしの情報

防災情報

イベント情報

道路・交通情報

入札情報

各課からのお知らせ

公共施設案内

広報おち

議会だより

例規集

申請書ダウンロード

越知町プロフィール

越知町のキャラクター

リンク集

クラブの概要

2024/08/30 更新

クラブの概要

おちスポーツクラブミッション

- ・みんながスポーツ・文化を楽しむ
- ・地域づくりに貢献
- ・青少年の健全な育成

目的

地域の皆さんが、自発的にスポーツや文化活動を楽しみ、各自の健康・体力を維持増進するとともに、お互いの親睦を図り、地域社会の連帯と明るく豊かな生活の実現に資することを目的としています。

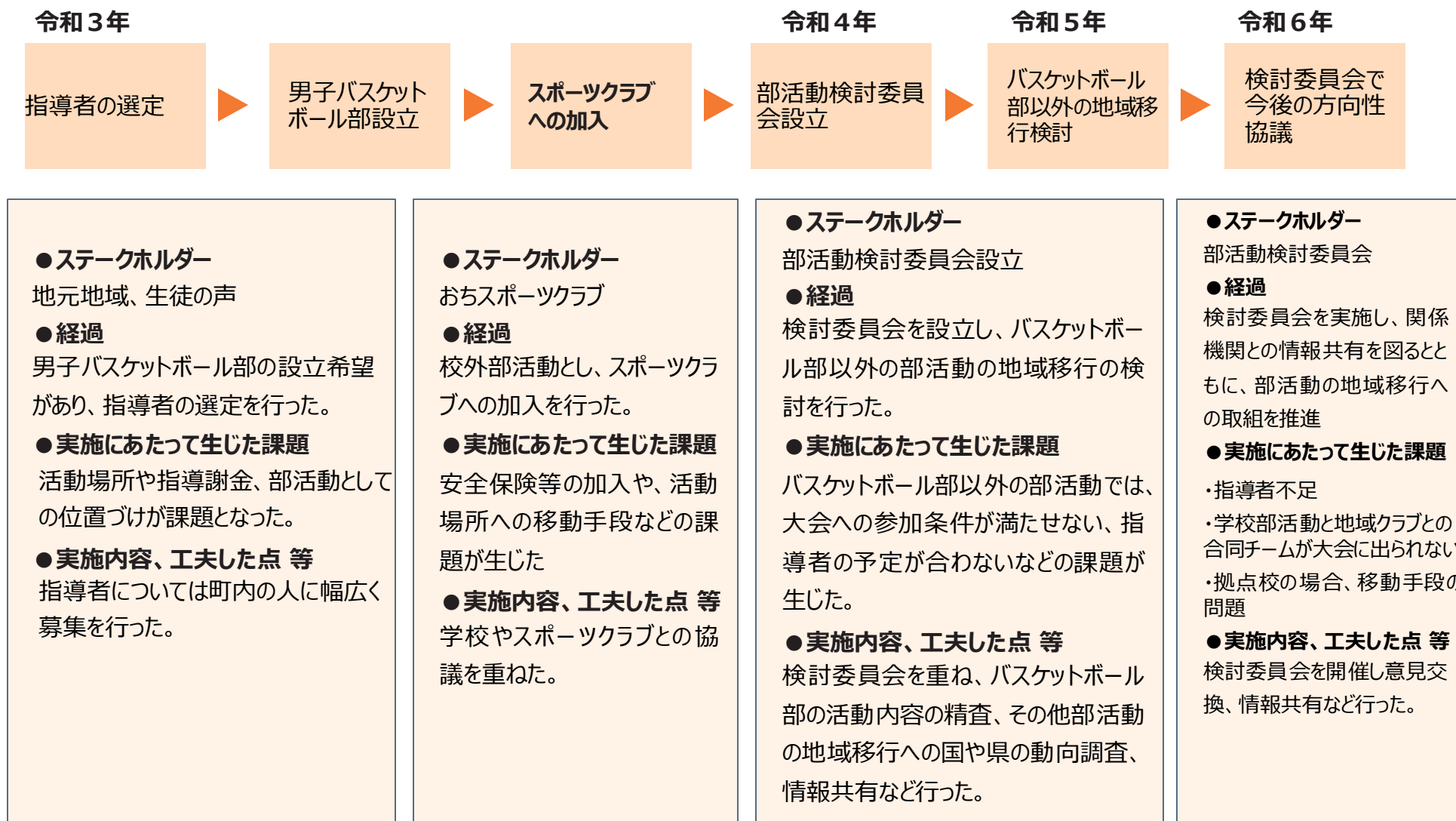
また、本クラブの活動を通じて、年齢・性別等に関係なく、世代間交流や地域交流を図るとともに、子供たちに社会のルールとマナーを体得させることです。

組織

総会	年1回開催
役員	
会長	: 1名
副会長	: 2名
事務局長	: 1名
運営委員	: 若干名

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

